



拾遺  
都名所圖會

後玄武  
右白虎

~~E~~  
~~165~~  
~~4~~

逍遙文庫  
文庫6  
1874  
10

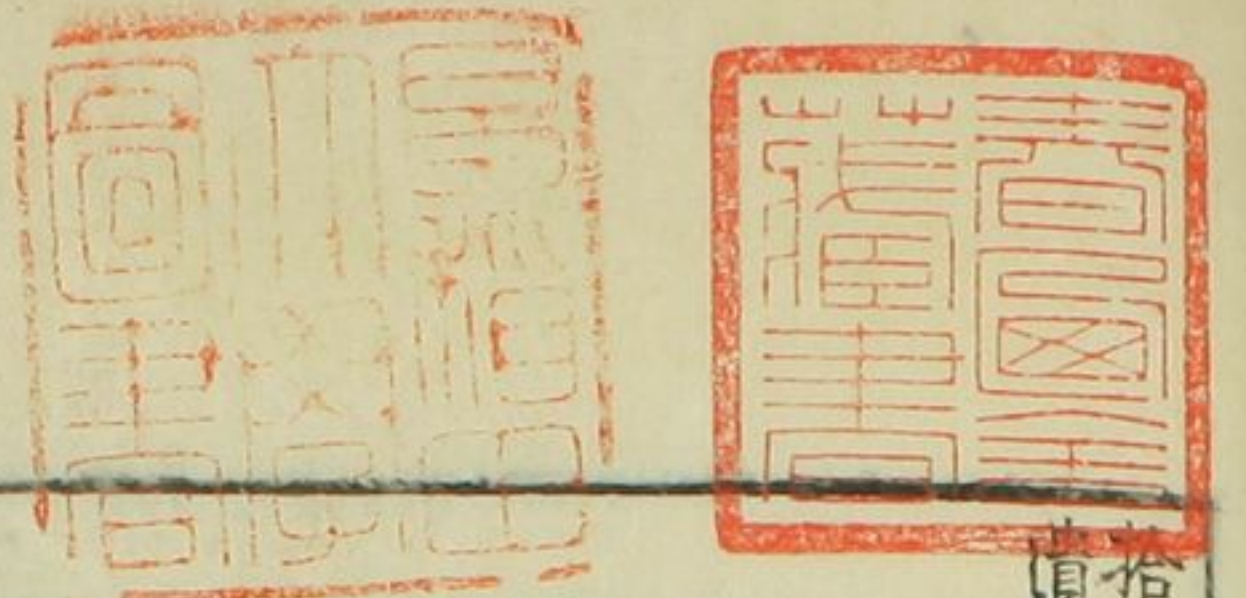




都名所圖會卷之三目錄

後玄氏

- 加茂窪寺とらまの梅
- 本列坂
- 妙見社
- 圓通寺 潮音堂
- 神明宮
- 静原
- 足洒石
- 大悲山 補遺
- 花瀬峠
- 牛若丸宅地
- 役行者坐禪石
- 炭焼 鞍馬の真久
- 立田祠
- 茶王坂
- 螢石
- 乳巖
- 車坂
- 惟喬殿若
- 棧敷嶽
- 小野櫓
- 西来寺 五百羅漢像
- 大豆塚
- 幡枝八幡宮
- 福惜目比沙門
- 小野皇后旧趾
- 歸一法眼塚
- 岩中柱落
- 満樹峠
- 雄多祠
- 小野皇王社
- 櫻井
- 辨天社
- 升塚
- 栗核辨天
- 巷
- 梶取社
- 龍王瀧
- 溪川筏流
- 玄畑
- 岩屋山 真院 飛龍池
- 為葉宮





御栗栖野  
二子塚  
小野道風社  
大皇陵  
石不動  
六請明神  
大内山  
宅磨塚  
北野清藤所  
堀地彦

氷室社  
婦夫石  
大宮  
惟喬社  
光孝天皇陵  
十禪師社  
清瀧河  
白樂天杜  
極樂橋

惟喬王社 同塔  
須臾祠  
小野篁墳  
若宮八幡  
淨藏貴所塔  
濟信法親王塔  
車塚  
淨室花見  
橘次宅  
安居

山森  
若緑松  
紫式部墳  
頼光墳  
不動石  
宇多野  
福王神  
地藏院  
花園  
龍翔寺跡

右白虎目錄

常盤源光庵  
水尾陵 水尾寺  
定家卿塚  
辨財天祠  
堀技川  
鼎淑孺人墓  
臨川寺  
大堰川 漁釣社  
西行櫻  
最福寺  
長福寺  
西院

細谷直指庵  
福田寺  
生六道  
化野念佛寺  
療病院  
落柿舎  
暖峨野  
後暖峨院陵  
大悲閣 子以碑銘  
峯堂 谷堂  
梅津尤衛門塔  
春日社

北嶮峨大覺寺  
後龜山院陵  
中院觀音  
五所明神  
三帝御塔  
下嶮峨車折社  
兼明親王亭  
龜山院塔  
野依  
真如寺  
山之内  
住吉社

水尾清和天皇社  
仙翁寺  
西行庵  
菖蒲谷  
圓光大師廟塔  
鹿王院  
龜尾瀧  
法論寺 細圖  
別雷峯  
神代三陵  
徳成寺  
高土寺



秀傳庵  
 天文臺  
 福源院  
 藤原兼房之莊  
 御靈社  
 觀音堂  
 長法寺  
 舟屋谷 行道石  
 院墓 備谷  
 業平遺蹟  
 長岡大満宮 補遺  
 宿院成就院 伯山社  
 神階山

宗圓寺  
 御所内  
 津寺  
 老坂比藏  
 保古羅明神  
 大原野  
 楊谷觀音  
 淳和帝陵  
 廣谷  
 三尊寺  
 成恩寺

寶藏院  
 膳定院  
 三宮  
 久世格  
 子敦盛跡  
 善惠上人塔  
 浄土谷  
 長岡舊都  
 向町 典勝 真經寺  
 神足社  
 神宮寺

野宮 同法水  
 幸林房墳  
 桂里  
 伊勢宅  
 蓮生寺  
 物集女水正寺  
 余願寺 大目石像  
 皇居旧趾  
 開田 法善檀林  
 勝龍寺  
 袖招松

此免六の梅  
 西行上人とわさりの梅  
 上加茂の梅の南西念  
 とつし小わりの所提の  
 下あて地低小より此小  
 窪寺



新古今  
 此免六の梅  
 宿飯  
 人  
 さりふ  
 さを  
 ん  
 西行法師





伊澤

幡枝  
圓通寺  
潮音堂



三ノ木



小野橋山端乃小ありて巽より轉りて北の方へ延び長谷等小  
野橋山端乃小ありて巽より轉りて北の方へ延び長谷等小  
野橋山端乃小ありて巽より轉りて北の方へ延び長谷等小

桜井 松崎乃西山岩藏ふりて松崎乃西山岩藏ふりて松崎乃西山岩藏  
松崎乃西山岩藏ふりて松崎乃西山岩藏ふりて松崎乃西山岩藏

本列坂 桜井乃西山の坂より松崎より轉りて北の方へ延び長谷等小  
桜井乃西山の坂より松崎より轉りて北の方へ延び長谷等小

花園 小野橋より小十二三町小ありて花園を大臣と稱せり乃地を  
小野橋より小十二三町小ありて花園を大臣と稱せり乃地を

萬歳山 萬歳山乃本尊觀世音の智達大師の地長九尺計初め其後瓜りて今乃府  
萬歳山乃本尊觀世音の智達大師の地長九尺計初め其後瓜りて今乃府

辨財天 辨財天乃小乃ト小ありて妙見社乃所民居の向小あり  
辨財天乃小乃ト小ありて妙見社乃所民居の向小あり

龜山 龜山乃本列坂の石藏に到りて東西小二つの園ありて其の長一具形  
龜山乃本列坂の石藏に到りて東西小二つの園ありて其の長一具形

大豆塚 大豆塚乃所鬼神を祀りて所小納むるなり  
大豆塚乃所鬼神を祀りて所小納むるなり

大悲山圓通寺 大悲山圓通寺乃佛殿乃本尊を聖觀音  
大悲山圓通寺乃佛殿乃本尊を聖觀音

定朝の化 定朝の化乃大悲圓通の額を後水尾院に震翰なり  
定朝の化乃大悲圓通の額を後水尾院に震翰なり

潮音堂 潮音堂乃本尊の准胎觀音坐像の又西國世之所祀觀音を安坐に  
潮音堂乃本尊の准胎觀音坐像の又西國世之所祀觀音を安坐に

乃女より寺と名を附し妙心寺龍泉の祖實性禪師と稱せり  
乃女より寺と名を附し妙心寺龍泉の祖實性禪師と稱せり

三猿堂 三猿堂靈泉庵の門前のある丘ありて園光院塔を本堂  
三猿堂靈泉庵の門前のある丘ありて園光院塔を本堂

乃むぐり小あり 延寶八年十一月十一日 都ては地の底遠小堀遠別  
乃むぐり小あり 延寶八年十一月十一日 都ては地の底遠小堀遠別

陀石と名を附し又白華堂の佛殿の小ありて向の桜花殿く  
陀石と名を附し又白華堂の佛殿の小ありて向の桜花殿く



炭竈の里



宿鞍馬山  
示同遊諸子

澗戶鞍山夕偶投  
丘壑看枕流鳴石  
急臥席近雲寒更  
問風塵遠無嫌道  
路難明朝謀出處  
不必向長安

南郭





く獲晋が醉中ハ遊禪杖愛する相ともしべき

幡枝八幡宮 日所の田乃山乃上あり所を清水といはる村の

栗徳辨財天社 野中村の後乃の村にあり所を引法乃

のりしを東がふ上とて村老乃を説き安んずるに

りろと居候多門如人の説き安んずるに

のりしを東がふ上とて村老乃を説き安んずるに

のりしを東がふ上とて村老乃を説き安んずるに

のりしを東がふ上とて村老乃を説き安んずるに

神明宮 日所社乃をぐしあり社乃を照る神社殿の幕草

のりしを東がふ上とて村老乃を説き安んずるに

立田社 日所道乃のりあり社乃を照る神社殿の幕草

福惜毘沙門堂 日所田乃のりあり社乃を照る神社殿の幕草

のりしを東がふ上とて村老乃を説き安んずるに

道 肉縁不詳

巷辻 毘沙門堂後ありあれよりふいへは本船ありて右乃方を静

静原 南乃より北乃十町餘ありけ所山向て

山集

薬王坂 坂乃より北乃十町餘ありけ所山向て

源平盛衰記云

小野皇太后宮乃舊跡 心がたりありけ所山向て

宇治園白頼通公の

宇治園白頼通公の 弟三の女之清詳観子の

續世継物語云

外 おこるい

をゆかへて下裏

位をへし之の心まぬりて小野といふ里に龍をかきせまひて都の

外 おこるい



白河院源雪乃のいと書見の行幸あるをいさく清供れ  
 人少くもはまのきこえし福やうを吐清を面白た  
 雪う那何うへつむらへた小野の白を居まのりえむらやと  
 られたる清隨身ありて従者と馬にのせて被まへてまの  
 こゆ清奉侍りては清車なりては清用意はべしとた  
 きんをたれきぬ具ありたる成せたるふあのとまのて履履十間  
 小らんをさしりまのりて清らんを奉もあつた  
 と中人まのりて居ま書見の人内えつる奉りてとさ  
 たるみきしたるてなんおとつはなほ居て清幸ありて  
 清車やつて入てりてのまのりてをそへつはなほ  
 さらぬ人ともめまのりたる朽葉れとみきつる奉二人一人を  
 使乃おたふ玉の内なる浪のさしに合れ立花一ささくれ  
 ころ紙持よりきり一人を序口乃純子の酒瓶のれ

伊澤

おとら二人乃寝殿のまんとてつれなほる老ふとり  
 とつらて清車へ奉りたるさぬいみしき優ふ人ぞえつる酒を  
 うはりてなをせりある橋を季通清供ふ人侍りたる  
 りせり上合久らせゆりまのりてにたうくさり  
 き世あつたりはきれを店一所はいつたられたり  
 くれを只今清幸ありてはけまのりせりたる清  
 身かさんあつたはは巻十四

握取社  
二殿乃小のく一本船の一鳥居のつとつあり  
握取の小橋の上の神小あり  
足酒石  
螢石  
本船  
和泉式部

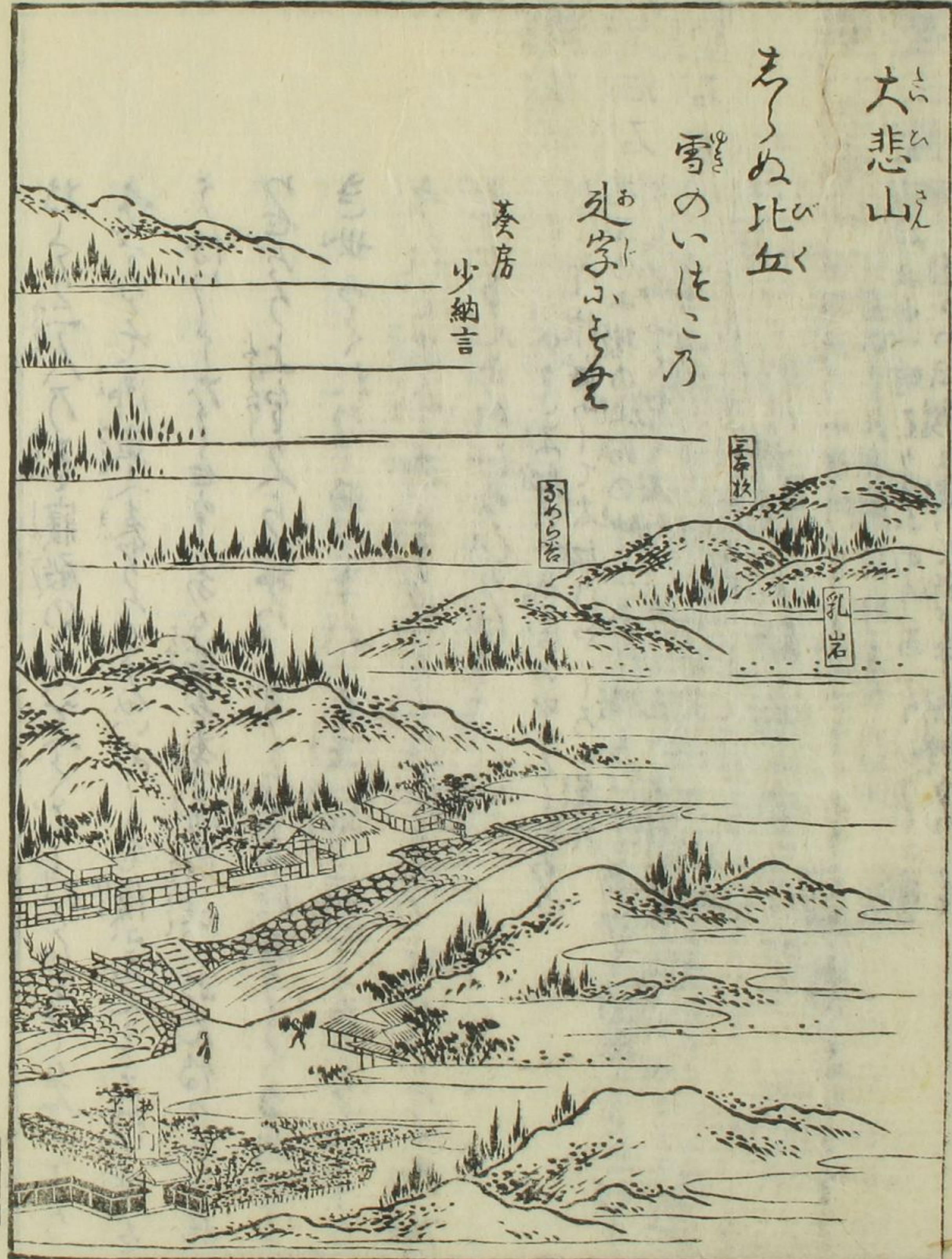
龍王龍  
龍王龍  
龍王龍  
龍王龍





乃る路

伊  
八



大悲山

あぐぬ比丘

雪のいはころ

処字ふとを

茶房

少納言

あぐぬ

茶房

孔石

伊  
八



大悲山峯定寺

當山ハ嶺陽乃山の方にて行程十里鞍馬寺より

二邑あり大布施といふを宗旨を天台より聖護院に属し樓門を

南向よりて金剛力士坂安んず余夫より本堂小登は奉十町あ

まを巖石嶮々として歩くは左右に老杉木林として暗く

其中間小鏡堂あり傍乃石上より後寛僧都に石塔築あり又其

上の方小役行者堂あり又其上六所明神社所謂六所明神ハ熊野

藏王八幡大菩薩加茂下上貴布祢大明神地主鏡智童子あり本堂を

當山乃護法神とて建立のつらめ保祀之奉丙子二月朔日あり

有白りて巖上小建嶮造りて若くは山本尊ハ十一面千手觀

音唐乃不空三藏の佛舍利觀世音胎内白山権現當山小方の

開基ハ觀空上人建立ハ平相國清盛樓乃高梁又道管乃

折當山の縁起ハ少納言信西入道の撰りて文藻祭然とる長章

ハ其大意採和解してあり又記に

夫一代の教之妙法弘説ハ者窟窟ハ志めて園案とのニ世覚母乃衆

生利ハ之清涼ハ不立化道と弘ハ大聖世尊猶靈地也凡夫

行人争ハ勝境と捨人佛子の求願とる所のものハ无上正等ハ遊歴

とる所のものハ名山大岳ハ境之偏ハ跋涉と奉とすハ何ハいも當て寧

居ハるハ風凰城乃地ハ鞍馬寺の乾の方ハ一靈地ハ山脚ハ山頂

小至て住ハ奇峯あり連々として相接ハ相齋茂くして昇峰崎嶇とる

佛子ハ地ハ至る戀々として去奉ハるハ忽芽茨とむして栖息とる

奉尚ハ其ハの躰光尋往詣乃便ハのく止宿止所定ハ宛驛草ハ量

程ハ多量ハ外九品乃峰ハ蓋安養界ハ擬ハ身一乃宿峰靈地也凡夫

身二ハ之盤手向ハ号ハ身二坂屋居とるハくは宿乃西ハ崇峯あり牟尼山と号ハ

次ハ一の嵩嶺あり善覺山と号ハ中品上生ハ象ハるハ身四坂阿弥陀山と号ハ次ハ寺

峰あり明覺山と号ハ中品中生ハ象ハるハ身五坂眼覺山と号ハ中品下生ハ象ハるハ

次ハ崇岳あり離苦淨土と号ハ上品下生ハ象ハるハ身六坂無原と号ハ次ハ奇峰あり冠振ハと

ハ上品中生ハ象ハるハ身七坂水飲と号ハ次ハ奇峰あり眞色淨土と号ハ

上品上生ハ象ハるハ身八坂樂門淨土と号ハ下品下生ハ象ハるハ身九坂





長杖を真ん中  
 出た中の中  
 谷へ持てこ  
 け未謝惠連  
 秀の賦ふ  
 書洩しつ

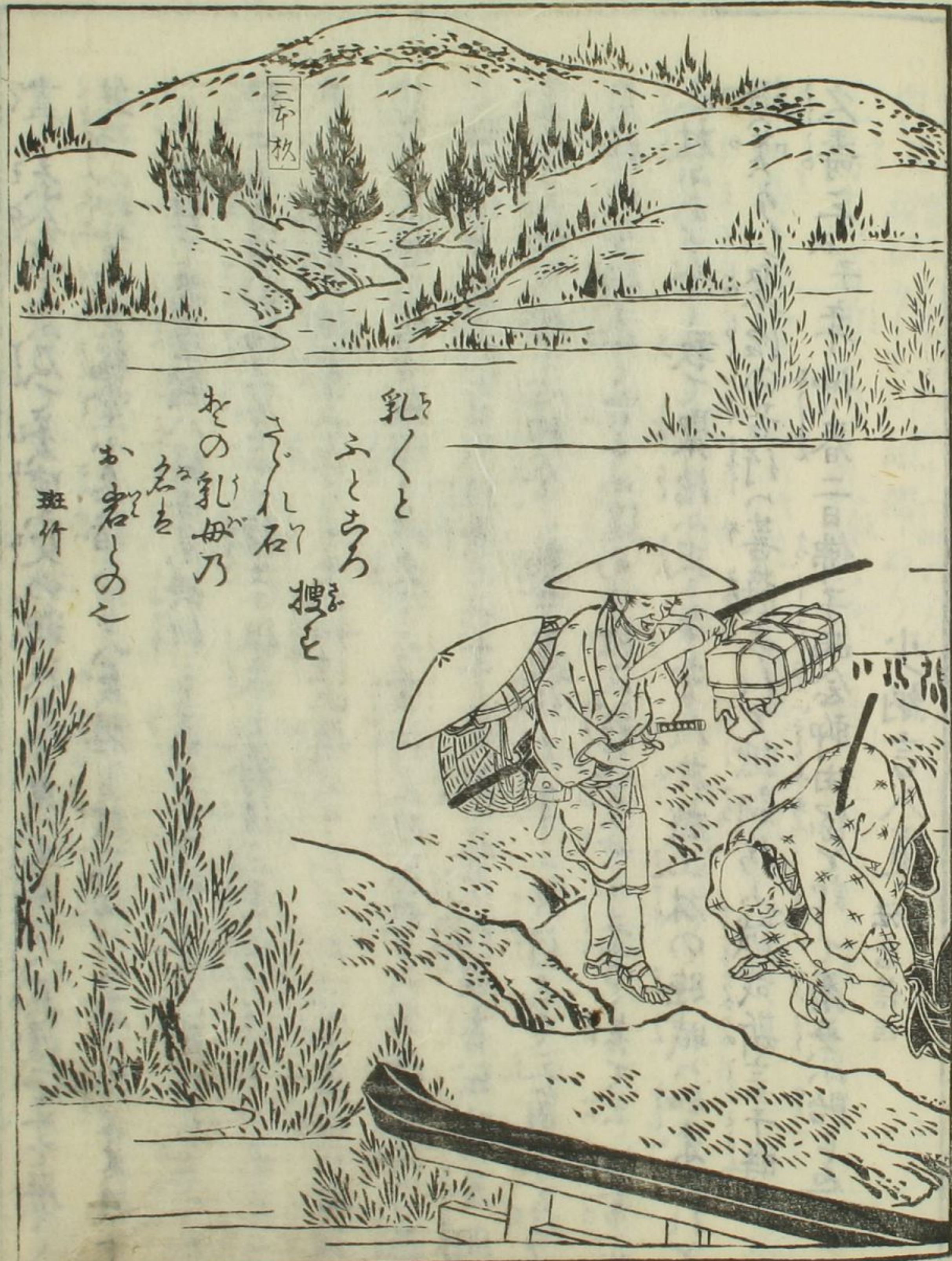




ありは乃峰大慈悲山の教奉乃中臺より石窟ありては多小一靈石  
其狀鸞鏡の如く千手觀音寶鏡乃清手あり大悲山の號蓋うに  
とを高く築造して人奉尤希之を白天とを乃形勢より二  
尺板蟻壤の嘲て遙海を望て眼路を遮はる百谷牛峰の編  
り乃石窟の中央ありては堂閣の基跡と並久壽元甲戌年二月  
之間の堂一字を建之白檀二尺乃千手十一面觀世音菩薩の像一  
軀安置し奉る佛座の下に石竇と水の滴る事死擔留の如くありて  
りて所伽藍供し濶滌く充一尺二寸乃不動明王五寸の二童子像各  
一幹同じく毗沙門天の像一幹同年四月に至りて仙院鳥羽忽勅命  
降て此像を請しなる事不思不意出く奉る鄭重あり歡喜踊  
躍隨喜悅豫をむう唐の不空三藏は佛閣伽藍宮乃足肅宗皇  
帝乃仁恩之令貧道比丘乃精廬を建之を寧禪定法を創敷ふ  
とや三寶を歸して萬邦を治と六度とて四海を撫ゆ古今の景ふく

和漢の類ふ若利生は我后の俗をん必无縁の比丘弘願を遂る事とん  
若善根は此の殖むべし何ぞかるに孤露乃少僧素意を果す事とん  
幸ある哉抑善根の負意茲よりくふりく其一曰今生大佛頂陀羅  
尼誦誦して来世の一切衆生乃死乃重病を療じ其二曰早く西方極樂  
小生を利生うらん事孤獨を還ては巖岨の住し又通力を以て法華經をか  
よび一切の経論を誦と其聲法界を達し之れを聞くと其の如く利生  
旅家らん二途の願大概かくれぬ弟子むく馬の家を生ま因果乃  
理を辨れ奉る一畝獵を以て業と漁釣を事と後春籠サ一忽り  
親父と母の時の時ふあて親父父子命して曰平生の悪業未世は苦果  
を顧と何為汝方便とめく一解脱を祈るべし弟子一よび斯事は  
聞て刀劔胸にあつる如く行年廿五善縁忽く催し首を剃て衣と襟  
を脱より難行若行念々歩々我父の何の所より生れん事と知らんと  
よび造次顛沛も我父の如く苦を受くる孤獨んと期と丹誠一心と







盡し奉念二年及び及中父の貌及び身馬面人其後二年を歴く  
然那山那智如意輪堂小系詣て又愛想を我父面人人身の獅子其後十  
一年経て播磨國八塔寺修行と蓋十一面觀音乃靈地之及中  
觀世音告て曰汝が父を不降土の住生と前後之愛仰で信とる又父子  
平生の切業紙墨も存とるもの如法の儀式かゝりて妙法蓮華經八部  
書寫一千五百日限と久く常行之時限修し又常行常坐乃兩  
之時と修と二千六百日経歴し又三千日限劇て八曼陀羅香灰燒其間  
常坐之時限修し心神全く動也と此外大峯小修行去て之固年と送る  
自餘の少行悉く記と違わぬ又我父及中未と告て云汝常小  
山林ふあふ一敢て聚洛小交る事あられ於戲山林の睡眠の如未あれと  
頽嘆の聚洛の苦行の菩薩とれと訖訶路の誠哉斯言干時  
久壽三丙子年仲春二日佛子西念聊由縁と記て奉榮小貽と也

少納言入道

法名信西

伊澤

乳石 當山門より南十六町をりありけ所 石の狀表平りて裏は方  
乳房十四箇所ありて乳頭の貌も婦人の乳の如し其乳頭より乳水垂  
滴り落ると乳を飲めば乳水と飲せば乳汁出ると一十年若狭國  
乃者此所へ來り山の乳房と礎て家よりおろしに魚鱈乳一  
大出崇坂をたふしふりてけ所へ返し垂る其乳房石は石上あり  
當ふ所は乳岩明神と崇免護法神と後華表の乳石より一町をり  
去りてふあり都ては源谷嶮岨りて推まき歩し子不知案因りて  
見ると平協いごと乳石谷二町をり入ると本坂といふあり大本  
りて又獲ひ稀と

本州綱目ハ石鍾乳とあり 凡類と久くあり又石鍾乳の説  
區ありとつとも其一二と揃てさふ奉法石鍾乳ハ大山の源谷  
小生と石乃津氣鍾聚て乳とる又滴溜て石とる故り石  
鍾乳と號く時珍曰按とるふ范成大が桂海志小説こころ甚



神明之云桂林宣融山小ほく洞穴の中石鍾乳甚多仰て  
石脈漏起とも處視れを即乳状あり白うして玉雪乃か  
石液融結して乳林下垂して教峯山と倒るるか如く峰端  
漸く鋭て且長く氷柱乃か杜端輕薄中空して鷲翎の  
如く乳水滴歴して已に且滴り且凝るるれ乳の最精きとの  
竹管故以て仰ておれを取る 下畧 慎微曰 柳宗元崔連別小與る  
書云石鍾乳の草木乃精り土に依るるの陰陽の居るありと  
本小近く石の附てあり其性移りて直る石の産に石精粗疎審  
尋尺時異りて穴の上下土の厚薄石れ高下其産るるの  
固一性るる然も其精密ふりて出るるの則油然として  
清く旧然として輝り其窟滑りて夷之其肌廉して微り  
おれと食を人として榮花温柔るるる其氣空は流して胃  
板生し腸を通し壽老廉寧あり時珍曰石鍾乳の陽明經の

伊澤

氣分乃藥之本經曰欬逆上氣故治し目と明り精と並  
五藏と安し百即と通し九竅と和し乳汁を下し別録曰氣と並  
虚換と補し脚弱疼冷下焦乃傷竭故療し陰と強くと久しく  
服ると年延へ壽と並し教色故好して老せし婦人服して  
子ありむ鍊せししておれと服ると人として滋養りむ又曰  
乳汁通せざる鍾乳粉を濃煎し用ゆあは通茶と等分りて  
茶と米飲ふ練丸一方す乃比して服ると本日々三次必驗あり  
柳當心と教峯回抱して五嶽の高を廬心乃金芙蓉とつひのべ  
同と觀空上人の場は後ふあり今も讀經の聲風小餅し耳底乃  
客とよりぬおれと訪福を心中入ると松回乃あり溪の水音と  
で治る一都て地勢の峻きとしておれ故攀登まは石角ふ衣と釣者技り  
首故止む常小啼鳥稀りて床乃音の杖者乃淋しき故觸して心  
堂乃眠る故覺と寝る多くをて風小吟して客本はしあり



行河のふかれの絶どして  
 去るもこのちよりの  
 具水のちりちりなり  
 大巻の真なる溪川より  
 大木板の筏とくく木と  
 大井のふ落とぬり  
 さとつとも海徑のふ  
 水神陽侯のちりちり



水神陽侯のちりちり

新涼  
 後次家元時  
 大井のふ落とぬり  
 大木板の筏とくく木と  
 さとつとも海徑のふ  
 水神陽侯のちりちり  
 右不賢宗





月小傭とて断腸の多しとのづきをわしふと香添くしく  
敷尺ふよふ鏡石といふ者ふの顔ふあり至つて峭壁より登  
幸のく一ス門ふみ核の大木ありて株の半より敷十本ふりれ  
あのかく直生立ぬ又者ふ乃小清谷といふ所をむく後寛文  
の室家一族をみ思ひ住しといふ今も當山本堂の下ふり乃  
一類乃塚あり九町坂の谷と隔る方といふ一の往還より勅使  
といふ道より來樂しといふ人け坂の登り天満宮鎮坐ゆまん  
あれ孤知所路天神といふく今路埋も峠ゆへと通る者稀きり  
く多麗と遠け真ふりく飛泉敷大といふ所岡の上人け一の行場あり  
今もやりりい此路より幻現しといふ人の中たふ城丹波の園塚を  
當寺より半里とくり小あり都ては地の名産の別所大布施より  
出て常ふ心中と棲り農業少く推多くして所々炭竈敷化つて  
煙絶と女炭薪取首小戴と牛馬ふはけて鞍馬の市小運入ありと

床の枚杖杖皮産石 鞍馬 等なり

花瀬

花瀬山 鞍馬乃山ありは向の唐櫃岩といふ大巖あり高サ廿五丈餘又  
寄生樹あり至つては本ありて懸あり又松乃株一本ありて松乃枝十  
ふ立生ぬとまき飯本松といふは所ふあり松乃枝十ありて千巖秀と懸

車坂

車坂 上加茂より乾の方十四五町ありは坂と車坂といふむく惟喬親王  
車坂は所ふ氣捨ありといふ

備樹

備樹山 鞍馬の山半里登る幸半里  
故ふは名ありといふ

雲畑

雲畑 奥畑の山一里餘あり是より山の方村里乃惣名に畑 中塚の 中畑 出谷  
牛若丸宅地 中塚の東より鞍馬へ越る中の中畑ありい所へ牛若丸は所ふ

雌鳥社

雌鳥社 出谷村の山ありは祭神未考いふ 惟喬親王田獵し少少村龍愛の  
岩屋一鳥居 出谷村乃山ありは往還乃中ふ立てていふ乃人具中坂通るあり

岩屋

岩屋 出谷村乃山ありは往還乃中ふ立てていふ乃人具中坂通るあり  
橋坂清寄附ありといふ



岩屋山金峯寺

出谷村乃小あり倭陽より五里一勢居より十六町あり

真言宗ありて樓門を金剛

力士坂安に額山岩屋山と書して後奈良院乃震筆なり本堂

山脈ありて奉尊不動明王立像五尺餘弘法大師の化之脇士の毘沙門地

藏尊坂安並に又脇壇あり弘法大師の像あり大日堂を本堂乃

西のありて則大日如来役行者坂安に

折當山へ久代天神醫道乃祖神藥王薩埵と化して出現し給ふ靈

場あり其後孝徳天皇の清守白維元年の役優婆塞となり給ふ

道坂踏まけけし登り月禪定坂後一藥師如来の靈告を以て

當山坂岡基に又厥后淳和天皇の清守天皇六年弘法大師は

小登りより神童出現して曰ふ者あり待奉久し早く之を乃

松法坂後一王城と鎮護し且一切荒生乃法願を成就し病悩坂

杖助し多人と教へて是の當山乃守護神なりとて飛龍と化し忽龐

小入給ふ是のありて大師飛龍権現と崇め龐のふ小勸誘し多人とあり

巖屋鳥居







伊澤



いこや  
 山金峯寺  
 岩屋山



権現の素よりて大師より不動尊に彫刻し千座に護摩を修し  
移くは是當寺乃本尊なり

○奥院 本堂乃より乃巖上小建 本尊不動明王 立像五尺餘 宇多天皇御願  
崖造りく西向なり

○天神宮 堂前乃 當乃鎮守とし移入遷宮乃附松一株一夜ふ生じ

故不松天神と號く

○飛龍龍 本堂乃後 岩屋龍とも稱は龍乃うふ飛龍権現乃祠有り又

龍壺の心よりふ飛龍童子乃純白石あり風狂の者當乃移入

本尊板札あり龍浴とも本日毎ふ二度ありて平金と祈まひ勿驗有り

○弘法大師護摩洞 龍乃うけ 所小たわて大師密法と修し移入て大師

乃洞窟にはやりの石每ふ經文鮮ふ居まるは是大師所化といふ

○香水 奥院の 巖窟より滴出と茶王薩埵は水と穿出しと法華經

灌洗し人よりふよめて其香今ふおいて自然ふ薫るを移くの病

苦乃者まれば服するふ金どとて奉ねて未代といふもは香水乃譽

世の高し又かの薩埵仙人化して諸藥を調りたる舊跡と上ふ

○役行者座禪石 樓門のた乃こ上

それ當ふを疊嶺巍々として漢乃劉阮の藥採採し天台の面

影あるふ澄遠ふして白を封じ飛泉寒ふして峭壁も趨る銀河

乃三千尺もあみりてあるは花散誘ひ紅葉散連て落

洞の水ハニ々と岩みみれて若鉛江鉉子昇は懸してけふを

石室岩洞多くして壺中ふ天地と縮光神化のおのづから家

ある乃奇境なり

棧敷嶽 岩屋の小二十町餘 は所四面ふふよりく嶽は具上ふこれ

あり是則惟高親王遊後眺をの高樓ありし所之は地の南の方

一面小暗て就鷲峰坐置の翠嶺生駒葛城の高根あるを難波津

乃のすましく眼中の客と取りぬ絶頂ふ此ありむりよりは地ふ於く



土器金具乃類椶々の器物被掘出た後まとも家採納せり忽  
怪異乃事有りてあるい悩乱しあるい狂惑に大恐惶之元の地  
み送り返に是則か乃親王の所所用ゆる調度ありといふ又云む  
よりけ地ふ於て鶏鳴をあり由縁被掘り又曰た麓の林の中  
二本竹といふあり具を杖の如し二本生じて毎年二本竹竿  
生に其長どるふおんで初の二本おのづう枯は是親王乃鞭取  
さしゆるの今生れりといふ又けぬれん腹お岩間より清水漏出  
至る清泉ゆて寒暑の増減あり是は親王田獵し終りた  
るふけ水取飼し免ゆ所之故の意乃水飲と号するあり  
さしを樓臺空しく朽く千歳乃むくしと有りぬ薄荷草  
茫々と名げし鶴鳴乃聲こよほく不聞ゆ鬼火も夜して只  
杖風のま蕭々といふ今ふかひりし  
小野 岩屋の二十町餘あり小野の北にありて中ふ穀村あり東は内西は内  
上村中村下村真子細の板垣等あり

小野 笹社 祭神小野笹の靈あり生土神といふ例系九月十日神樂一基あり

箕傳 冬議岑守乃男ありて在大辨從二位あり承和三年二月の

配流せしと後國小遷居同七年四月勅許せりて帰居は同

八年因四月奉位ふ任仁壽二年十二月廿二日薨死と云 五十一

落葉宮 下村民居良一町ありあり祭神相本湯門が心とくけり女三宮

御栗栖野 西が茂大門村乃西の野と云は所いりへ大内裏の時察の時馬

源氏物語曰 今と野のさしをさし人津馬草ありと云くありと云

氷室社 紫竹村乃小二十町餘氷室村ありあり祭神未考は所いり南に

氷室あり 氷室城あり四面をふみりて境が峻岨ありいりへはと云ふ

千載 下の氷室乃ふのさしと極清沙なる雪うらそりんは

同 あたりと入涼りりり氷室ははる水のあるのさしハ

新續書 限あはりの雪乃はる日もさる氷室のふ乃下は本

延喜式 氷室乃地多し廢して今終遺ま

當國氷室乃地多し廢して今終遺ま

源仲正 大炊清門 右スル 順徳院





松尾山

松尾山

伊賀

伊賀



松尾山

松尾山

伊賀



惟喬社 東河内村民家乃南あり祭神親王乃神靈ありは所の生也

相承盡してついでに御系九月十六日いへを神樂遷葬し土人種に形

惟喬親王傳 文徳天皇の皇子の皇子なりて母公は從四位下静子紀名

虎乃女親王小野小住孫人故小野宮と名く貞觀十四年小出家

しゆひ法名と素覺といふ同十五年二月廿日薨じ給ふ 二十 六歳

惟喬塔 同所長福寺あり

山森 西加茂川上村乃長鴨川乃あり森の周一町計

二子塚 あり由縁不詳 婦夫石 二子塚より長鴨川乃

須美社 日所小の端より二町より南民家乃西あり祭神未考例を二月

高雄 公法華寺の縁より起るといふ森の縁編みありと敬ふ

若緑 本所真珠庵村の東南あり大なる古松あり其本小祠あり祭神

御所内 同所乃小田乃家といふ傳ふ 百合洲若丸の宅地なりと云

小野道風社 小野庄坂村あり正一位武大天神と祭る人土神

坂岡に抄小野道風天曆帝小仕て日本三跡の一以乃野

道風書と云ふ康保元年小卒と年七十一

小野神廟 武神祠 龍公美

工部芳聲 大靈祠此屹然臨池千載業誰復多繼斯賢

寥々杉阪傍樹鬱明王堂不見塵寰色梵音風外長

香水藏山頂炎旱曾不枯人言傷喝客一嗽即神獲

道風千載久書比晋人賢欲吊墨池古先臨盥漱泉

一橋架峽岸臨眺自清奇恰擬半輪月思君在峨眉

淺深不可量朝洗僊人掌木末含芰荷翠色看來長

風流野長公墨妙孰爭雄欲見威神赫原泉滾々通

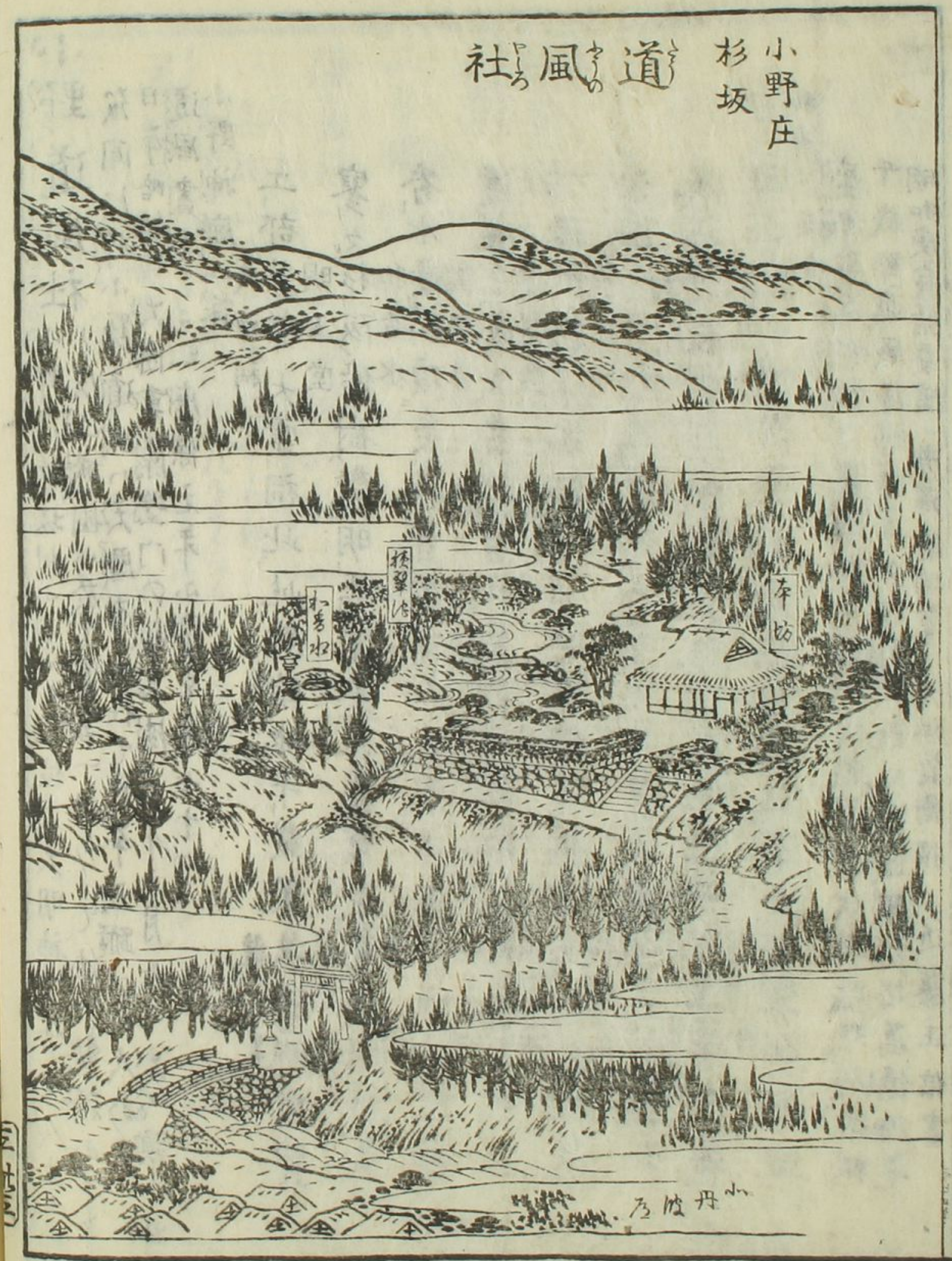
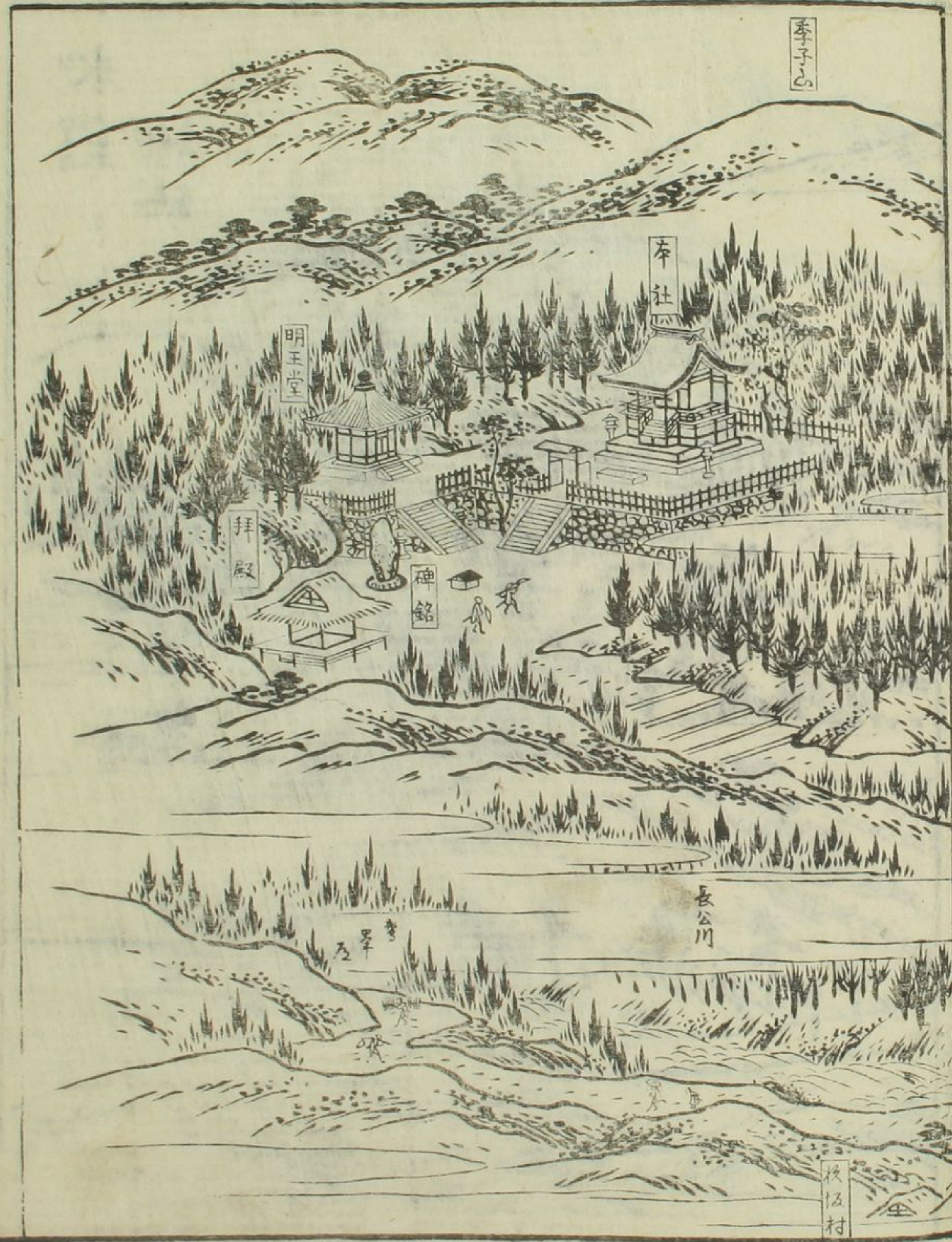
諸山相伯仲季子最蒼然誰逐延陵跡遜家耕石田

和香水碑銘 甯沸靈泉杉阪之巔維神爰臨令德彰宣載伏旱魃

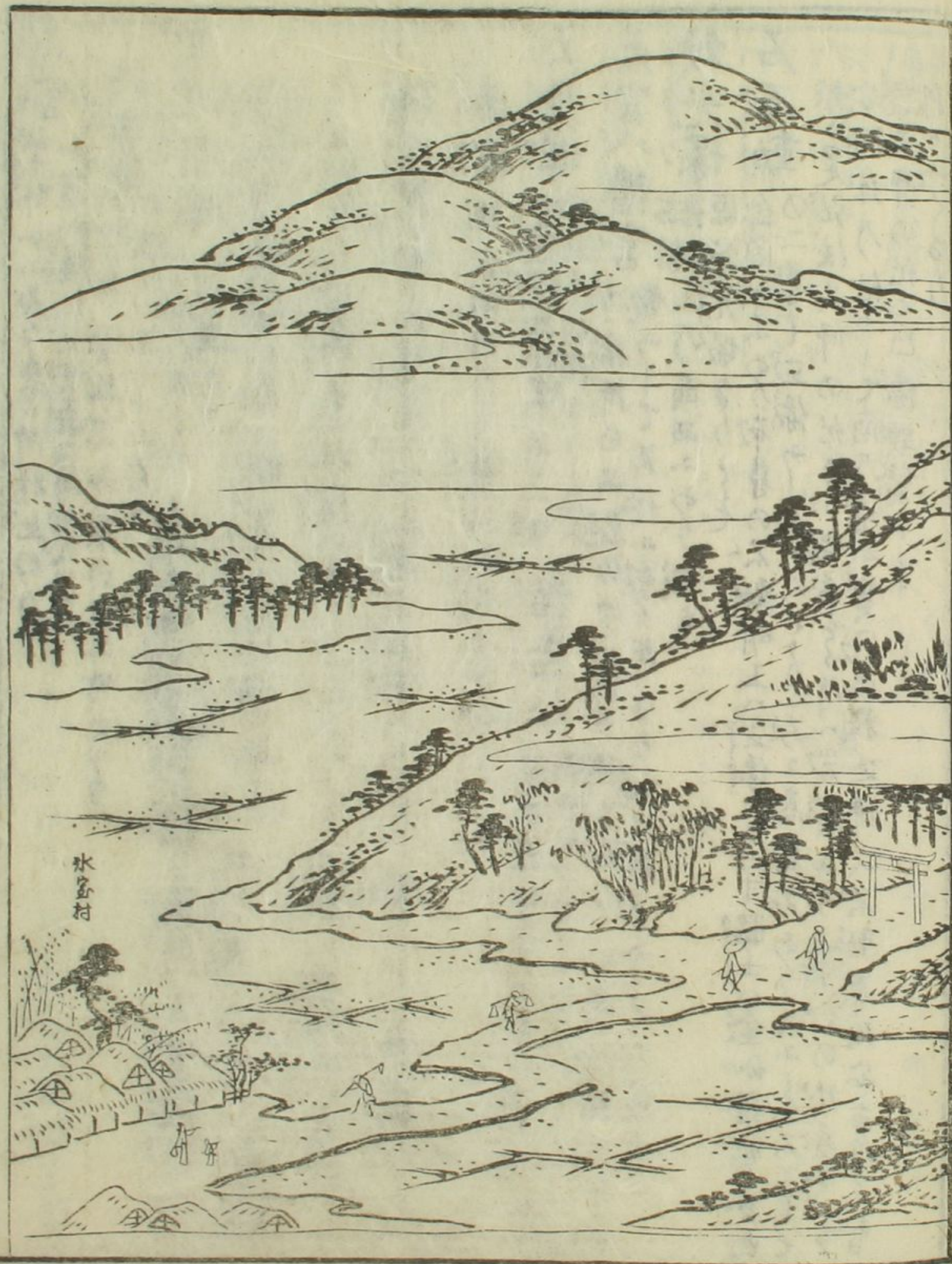
千歲雖邈厥澤綿綿辟公斯挹式肅式顯迄用不竭萬億秣年

明和庚寅孟夏望 井澤善興篆 大江資衡撰 近藤正信書









氷室村

三十四



氷室の  
神社



大宮 紫野小あり多所社あり

小野篁塚 紫野雲林院卯辰の方二町より

紫式部塚 上小機あり 花鳥餘情曰 紫式部墓所を雲林院乃

末院白毫院乃南小野篁墓の西あり 岷江入楚曰 宇治の寶藏

乃日記ふと紫野雲林院よりより式部へ榎那院僧正乃

許可紙系して天台一心之親の血脉入ると云てより雲林院乃

幽閑派志めりし者ゆへあり

天皇塚 雲林院の東あり 惟喬社 雲林院の南今宮所務所東の

若宮八幡宮 所務所の西あり 傳之坊 所源頼光の居

頼光塚 源頼光塚あり 南西あり 傳之坊

石不動 金剛寺あり 不動明王の立像六尺二寸脇土ハ金伽羅勢多如

依りて弘法大師の允より安置する所ハ岩窟あり又堂内の北庭を

安阿弥乃允より南乃壇ハ寶冠の釋迦佛又不動尊歟安至は足智

證大師の允とは御頭髪なり

淨藏貴所塔 金剛寺あり 不動石 金剛寺ハ鏡石より一町より

六清明神社 金剛寺の南庭室五ノ段林の中あり 糸井

十禪師社 龍安寺門あり 西あり 土人

仁和寺濟信法親王塔 右のヤリ後小二町より

宇多野 仁和寺のあり 大内山 仁和寺のあり

光孝天皇陵 仁和寺山門乃西一町より 車塚 此塚の南二町より 清涼

福王神社 仁和寺の西福王寺村あり 孝天皇の后寛平法皇乃

宅摩塚 高道の人あり 信敬の明惠解脫の兩上人ハ春日住吉

の二神常ハ擁護と云ふあり 日宅摩明惠の室に至る障子の内ハ人

無日住吉あり 語り聲あり 宅摩あり 宅摩寺感して障子の障子

執りて 神相あり 死を是即凡人神相あり 冥罰あり

小機あり

清瀧河 梅尾高止寺門あり 橋下のより水原下野より出ては地と

と愛宕乃藤原歴て大井川入也





半時庵  
 淡々  
 花の山  
 夕陽  
 若け乃ハ  
 目録  
 若く



新古今  
 花の香ハ  
 衣ハぬク  
 成みク  
 本の下  
 舟の  
 まんく  
 貴之  
 浄室花見



地藏院

紙屋川乃西小あり... 行基の化と又聖徳太子と安んずる覺の化と

長名椿

當寺の庭中ふいふ小椿ありて花の盛るるを珍とす

北野御旅所

下立賣紙屋川の西小あり小祠あり菅神祇祭あり

白樂天社

本村有御畠乃字とるなり

花園

今心寺乃地とて花園社と妙心寺の西一町とあり

協地藏

下立賣乃西法金剛院の裏あり本尊地藏菩薩坐像八尺あり

極樂橋

佛聖衆と奉迎の躰相と見ゆるなり

安居

地蔵堂乃御辰の間あり民家あり村の名は地蔵といはれ

龍翔寺旧址

安居村あり後宇多院塔は所あり

常盤里



夫木 け里の 杜乃 花の 家隆

三ノ二十七

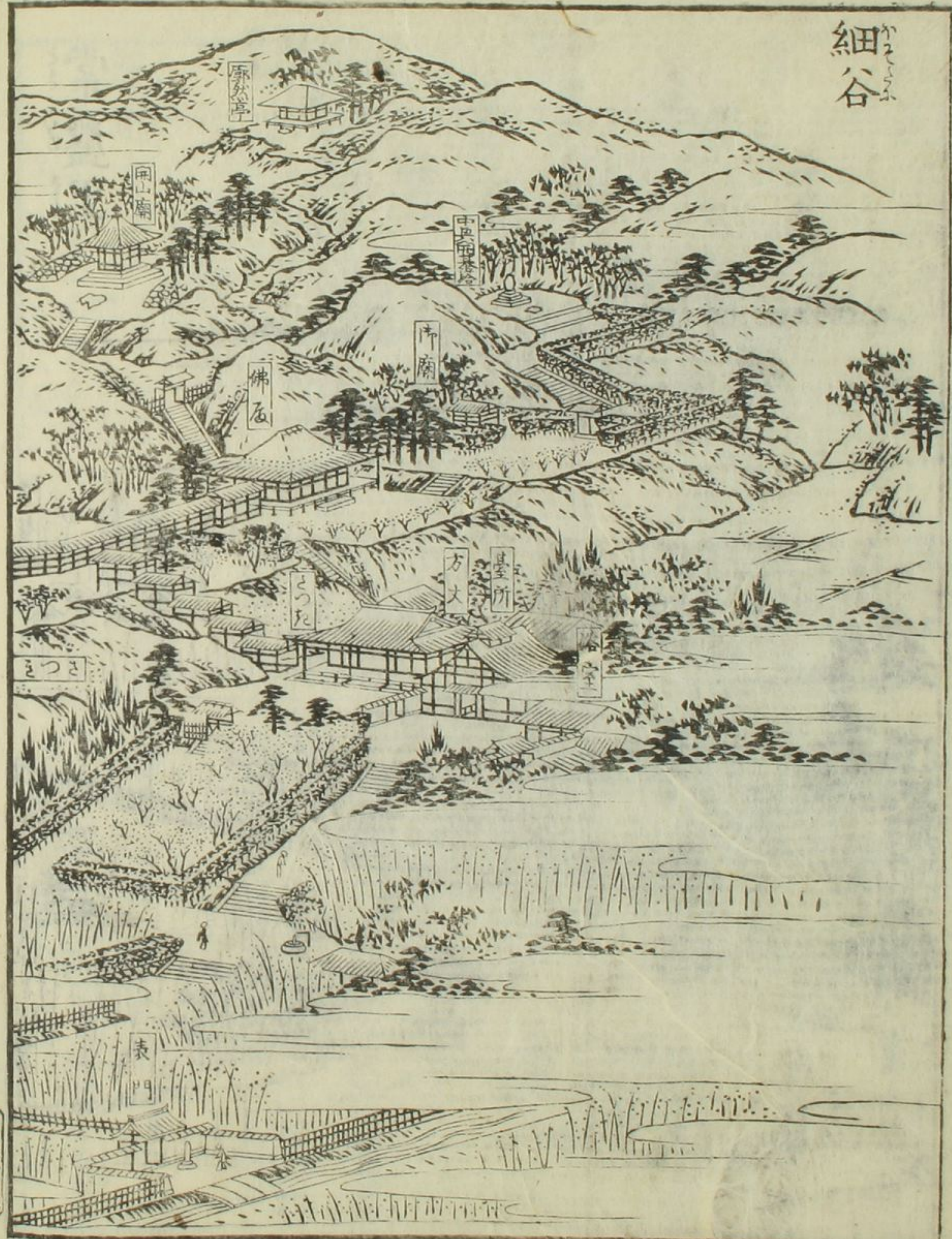


祥鳳山直指庵



三本  
山

細谷







ぬれまゝ  
 せ井と渡は  
 初めりれ  
 翔小あゝ次  
 よしの  
 枯風  
 皇太后の女後成女

山本 三ノ千九

北嵯峨

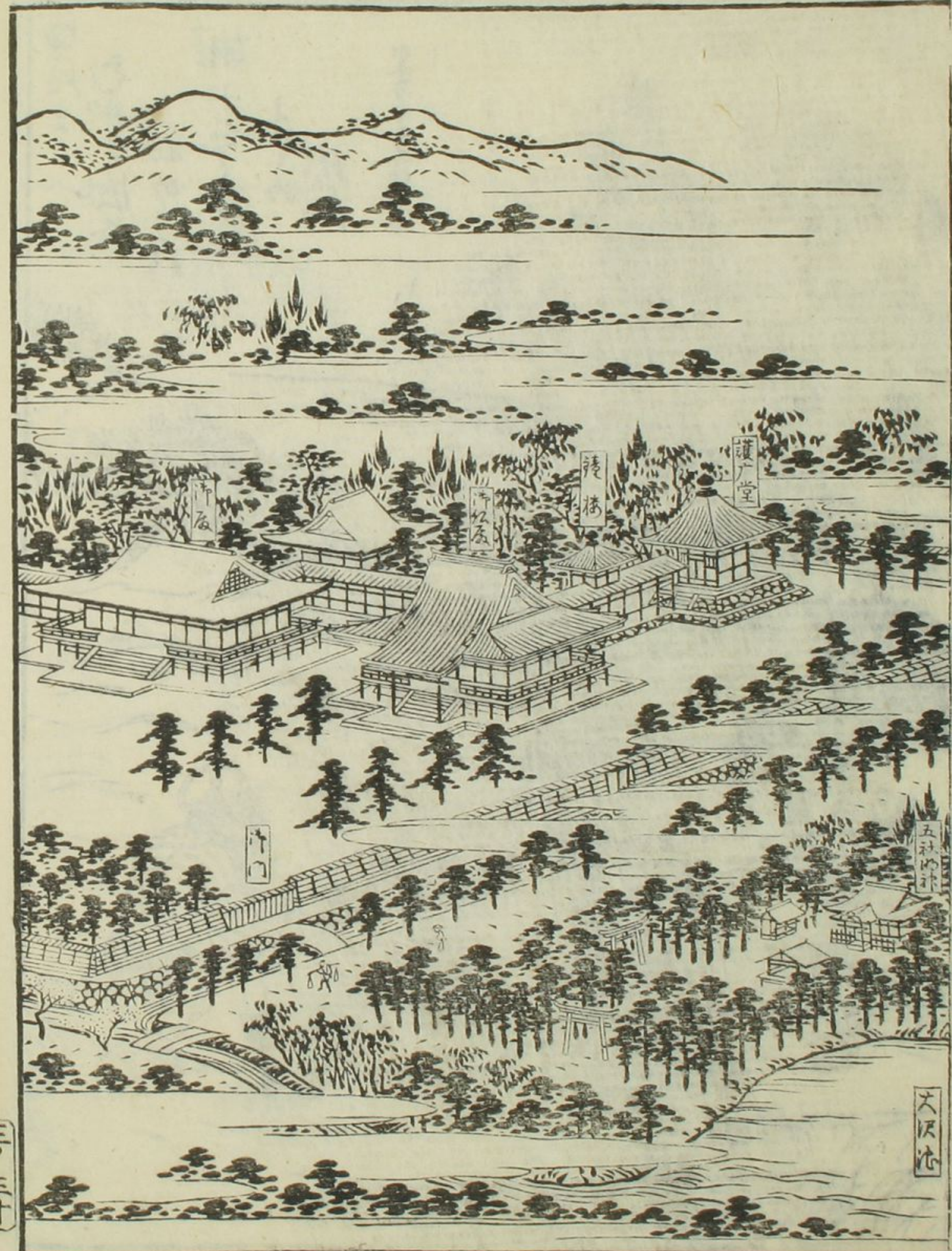
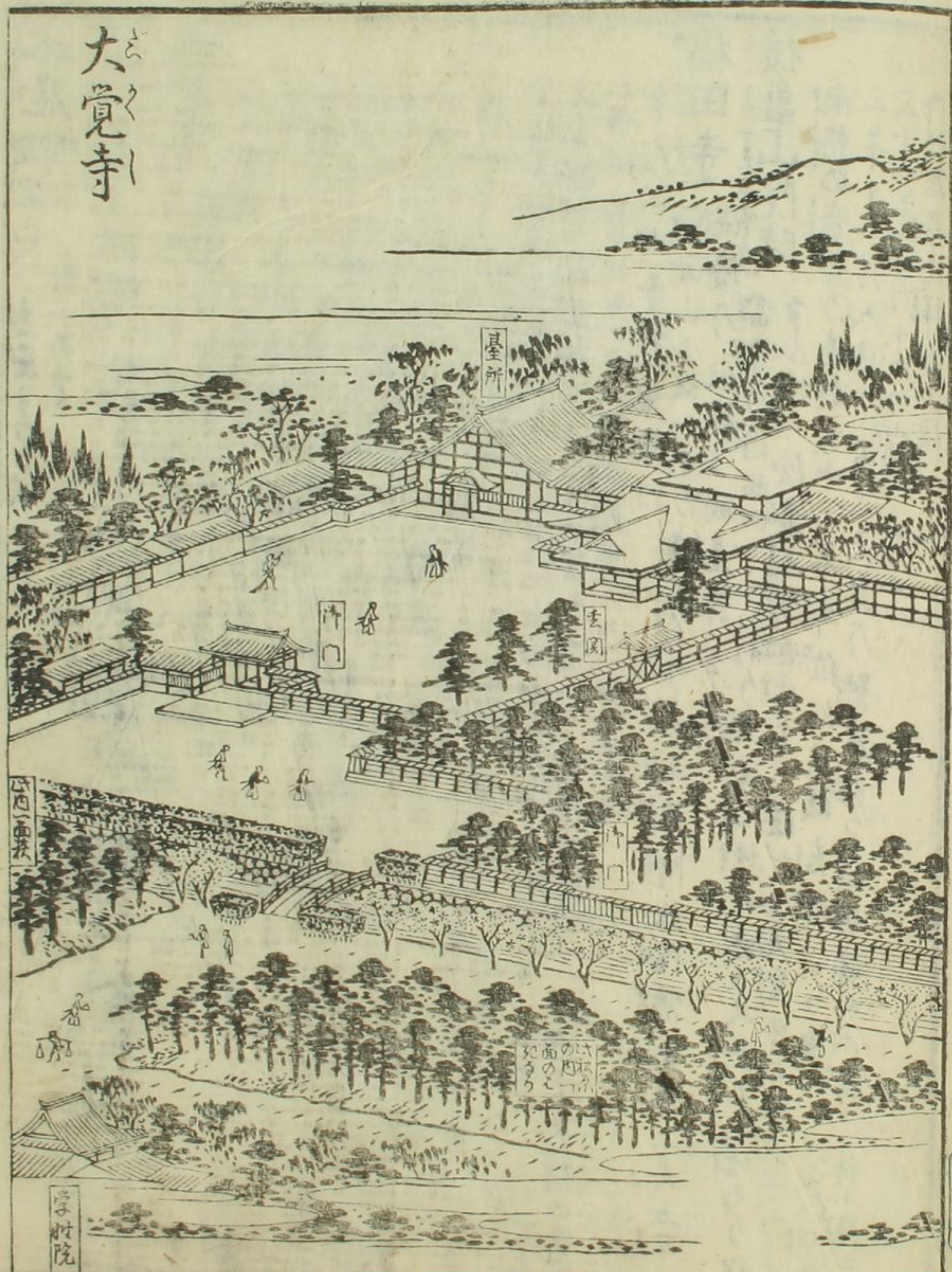


新古今

山本 三ノ千九



大覚寺





水尾 愛宕山一坊居よりたの

清和天皇社 朝所延暦四年九月庚子水雄國水雄國に

水尾陵 日所あり清和天皇乃中骨板藏奉所あり

三代實錄曰元慶四年十二月癸未申の刻天皇圓覺寺崩

好書傳外立領軍教輕給以發言舉動乃際心る次禮度

水尾山寺 同所あり清和天皇崩御の後追善の爲詔あり

又貞觀寺水尾寺乃二寺小使奴遣一功德奴修一圓覺貞觀の兩寺

福田寺 愛宕山小坂あり清和天皇崩御後追善の爲詔あり

後龜山院陵 當寺乃内西の隅あり五攝石塔建又左右二塔あり

仙翁寺 愛宕一鳥居乃仙翁町の中山あり上古は仙翁位

定家卿塚 土岐山伏塚といは郷の塚所々あり後判あり

生六道 清和寺乃成教あり本寺地蔵菩薩立像二又小野

中院觀音 定家卿の持佛之は奉近相合所小安堂は本尊を

西行法師菴跡 二尊院中門の云く運善院乃

辨財天社 日所龍女此の所あり龍女と勸請

山本

山本

山本

山本

山本

山本

山本

山本

山本

山本

山本

山本

山本





山本

三ノ三十二



水尾村  
 清和天皇陵  
 四所権現  
 圓覺寺

水尾村



化野  
念佛寺

東京府八王子  
餘部町百拾番地  
坪内雄藏



山本



安石も屋先

三十三



五所明神 北嶽大澤比の西あり祭神ハ神明ハ幡加茂

菖蒲谷 湖所大覺寺の北ありは所小大比あり如生祇園と漏

堀抜川 水原ハ菖蒲谷の北ありは所小大比あり如生祇園と漏

祥鳳山直指庵 嵯峨細谷の北ありは所小大比あり如生祇園と漏

療病院 嵯峨釋如堂境内の小ありは所小大比あり如生祇園と漏

三帝御塔 嵯峨山二尊院佛殿の西ありは所小大比あり如生祇園と漏

圓光大師廟塔 宗景廟の撰り所ありは所小大比あり如生祇園と漏

鼎淑孺人墓碑 撰り所ありは所小大比あり如生祇園と漏

落柿舎 倉山下緋の社乃ハ弘法大師の御宇に於て...

落柿舎記曰 落柿舎ハ弘法大師の御宇に於て...

柿ぬーや本と糸ハらりた糸ハーハ 去来

近年去来の支族惣士井上重厚舊蹟小

落柿舎に修補具儀ハけ与とる不録也

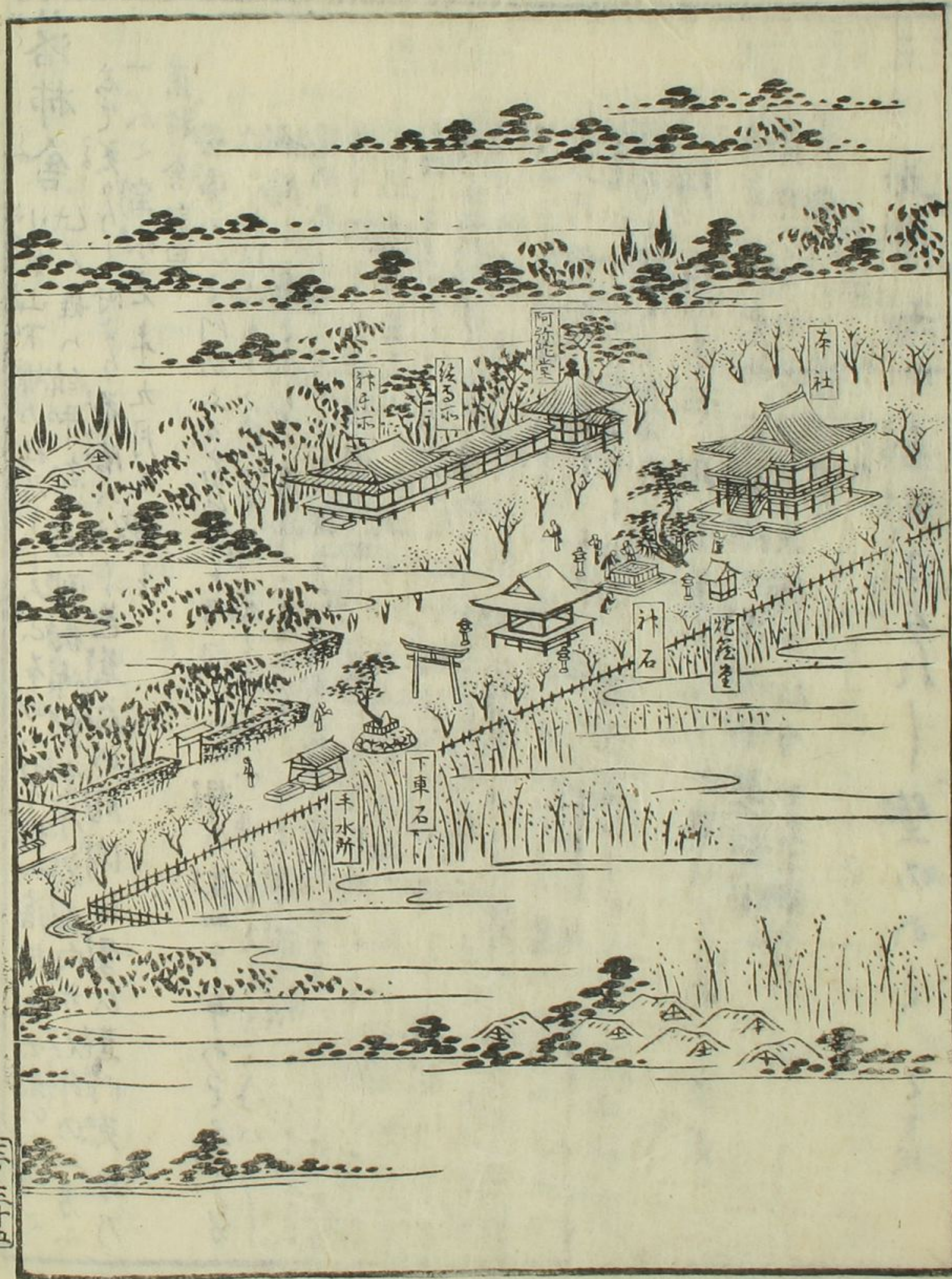
五月雨や色紙まぐれ一壁のあと とき辰



下嵯峨  
 車折明神社  
 系神へ後白河院乃  
 近長法系頼業卿之  
 此人聰明活潑なり  
 凡流と好む梅の花  
 愛しゆ人故社頭不  
 橋多し車折乃  
 由縁前編ふ足へり



下嵯峨



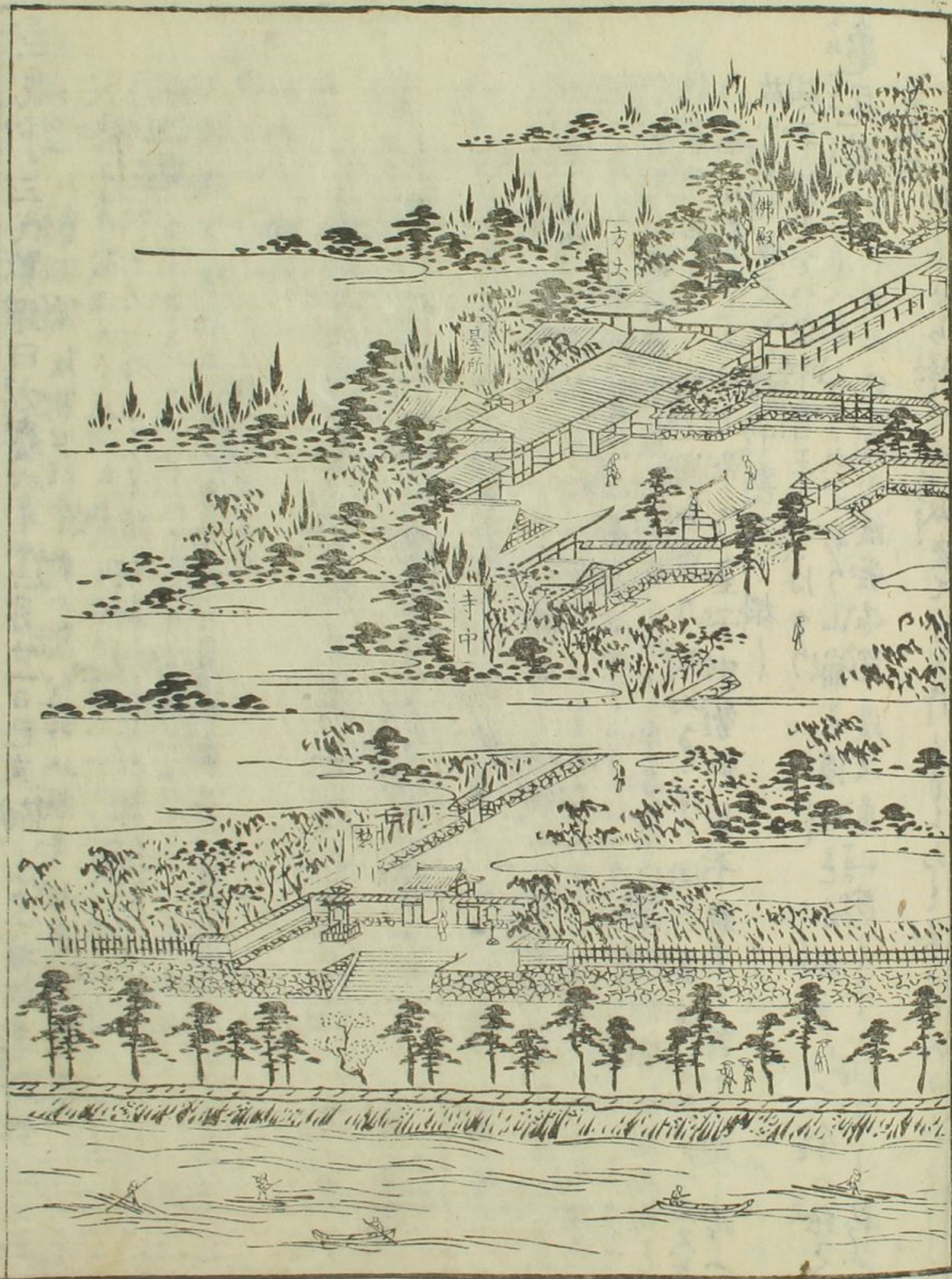




鹿王院







山本  
三十五



嵯峨  
臨川寺

川井大



嵯峨野

三代實錄曰慶六年十二月廿一日己未勅山城國葛野郡嵯峨野  
舊田獵制を於新禁加人樵夫牧豎乃外鷹放を忠  
乃別莊をさぐりて名所跡をいひし上皇乃仙居雲客  
傳記詳さるるありて多し今おぼふに久しかり嵯峨野といふ所  
上嵯峨下嵯峨乃名なり今ハ民家建はれて所をさぐりて  
おぼふに久しかり野山原とも

新舊 夕雲の林のさぐりたるのまふに仙居たるをさぐりて  
新舊 夕雲の林のさぐりたるのまふに仙居たるをさぐりて  
新舊 夕雲の林のさぐりたるのまふに仙居たるをさぐりて

玉吟 ひろくさくさく月をさぐりて浮世とてはなれぬ  
玉吟 ひろくさくさく月をさぐりて浮世とてはなれぬ

兼明親王亭

今野の南の蹟ありて親王の延喜帝第十六の皇子の  
起ハ貞元二年乃夏白氣通公のこころしめしめて  
中務卿の任に頼忠公大任に宇多帝の源雅信公をたて  
乃權取親王の村上帝乃皇子中務卿具平親王と詩文の迹  
故ハ兼明親王の前中書王と稱し  
具平親王の後中書王と稱するなり  
龜尾籠るは龜の麓ハ後嵯峨院後又龜山院ともいふ仙居一  
著聞集

増鏡云

兼明親王の仙居の跡ありて水乃心をいふのけし  
車ハ權大納言實雄卿乃こころを聞えし水乃心をいふのけし  
前中書王乃ぬかたの倉乃麓乃廣隆寺常盤乃杜西を  
自然の勝地なり南ハ大井河をさぐりて法橋寺なり  
なり  
嵯峨龜乃麓大井乃川の岸ありてゆきた院とせらる  
せりハ倉倉乃麓乃離頗乃麓もさかき津垣乃ゆきた院と  
いふも兼明親王の筆乃りしるしありて院ありといふ  
かハありて西ハ兼明親王の筆乃りしるしありて院ありといふ  
なほ乃りしるしありて院ありといふ  
乃金堂ありて多寶院とて稱し土宗ありて天王寺  
なりた庭はくは多勝院と稱すなりて此寺持佛とて  
なしてまうせり云々

續古今集

龜乃仙居ハ吉野の山乃橋ありて人たりし  
花のさかきとて  
龜乃仙居ハ吉野の山乃橋ありて人たりし  
花のさかきとて  
龜乃仙居ハ吉野の山乃橋ありて人たりし  
花のさかきとて

徒然草云

龜乃仙居ハ大井河ハ水ありて大井の土民ハ  
龜乃仙居ハ大井河ハ水ありて大井の土民ハ





山本  
三平



大堰川  
漢釣躰

一口小

中色

とら

結と

秋加

江戸

一鉄







嵯峨  
法輪寺





西行橋

樹蔭の  
南あり

新古今

ふらむと

花のよそ

あめれい

らうん

あつら

西行法師



大悲閣

大悲閣 嶺山の西に形橋あり十町をくりあり本尊は千手観音恵心  
僧都乃化して泣像三人をくりありの脇壇に角倉了以の  
像安置せし法華の夜七十七有餘に相形手り石割斧と  
持て石上五繩を圓坐し片膝を立て坐をい人乃井河の巖石と  
破碑を丹波園より舟板通りむ足二別乃益りてむうら今  
了以碑石 閣のあり 側あり 序銘 林道春撰る所なり

吉田了以碑銘

吉田了以碑銘  
古云舟楫之利以濟不通嘗聞其語矣今有其人也了以更其人  
歟了以姓源氏其先佐佐木支族騙吉田者宇多帝之後也云爾  
世住江州五代祖德春來城州嵯峨因家焉其所居乃角倉地也  
洛四隅各有官倉在西曰角藏語在沙門石夢窓天龍寺圖記中  
德春子宗林宗林子宗忠皆潤屋也而仕室町將軍家宗忠子宗  
桂薙髮遊天龍蘭若嘗學醫術一旦從僧良策彥適浪渤赴大明  
明人或稱宗桂號意菴蓋取諸醫者意也之義還干本邦其業益  
進娶中村氏以天文二十三年甲寅某月某日生了以諱光好小  
字與七後改名了以性嗜工役嘗雖志莖仕而未肯事信長秀吉  
矣及干  
前大相國源君之治世也而初出奉拜謁焉慶長九年甲辰了以  
住作州和計河見舩船以為凡百川皆可以通船乃歸嵯峨沂大  
井川至丹波保津見其路自謂雖多湍石而可行舟翌年乙巳遣  
其子玄之干東武以請之台命謂自古所未通舟今欲通開是  
二州之幸也宜早為之丙午春三月了以初浚大井河其所有大  
石以鞭韁索牽之石在水中構浮樓以鐵棒鏡頭長三尺周三尺



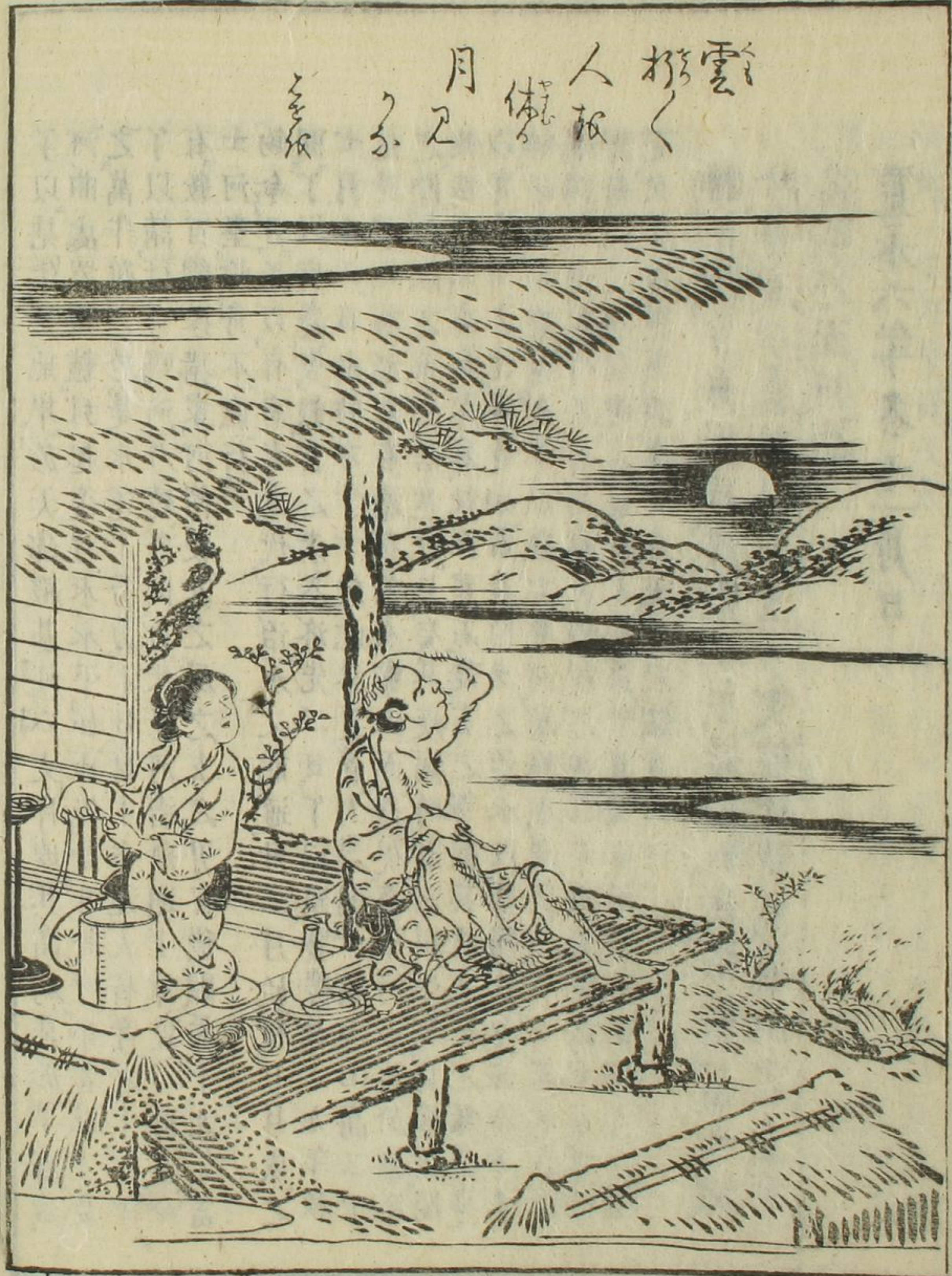
柄長一丈許繫繩使數十餘人挽扛而徑投下之石悉碎散石出  
水面則烈火燒碎焉河廣而淺者帖石而狹其河深其水又所有  
瀑者鑿其上與下流準平之速秋八月復切成先是編筏纜流而  
已於是自丹波世喜邑到嵯峨舟初通五穀鹽鐵材石等多載漕  
民得其利因造宅河邊居焉玄之嗣焉子嚴昭受傳之玄之能書  
且問儒風於惺窩先生有年矣一旦招先生遊于河上奇石激  
湍甚多請先生多改舊號其白浪揚如散花者號浪花隈大橋其  
齊沮環石者號觀瀾盤陀有石相踞可二十丈猿抱子飛起其間  
者號叫猿峽嶺東有山巖高峻有捷鷲之危巢者號鷹巢石壁  
斗絕猶如萬卷堆者號羣書巖瞻此處有石似門廣五丈高百  
餘尺者號石門關有湍急流舩行如飛號鳥船灘嶺川難隣於水  
尾世傳清和帝嘗來觀魚于此焉岸有山岩高可五十丈其下  
水平衡如水載山取山下出泉蒙之義號曰蒙山皆有倭歌在其  
家集惺窩所遊觀止此焉復各石方三丈許其面如鏡聳於水崖  
號鏡石又有浮田神祠世傳遠古之世丹波國皆湖也其水赤故  
曰丹波大山神穿浮田決其湖於是丹波水枯為土乃建祠而  
祭之以鋤為神之主此神即是松尾大神也下此則愛宕龜山在  
左嵐山柱右其勝區不可枚數十二年春了以奉  
鈞命通舩於富士川自駿州岩淵挽舟到甲府山峽洞民未嘗見  
有舟皆驚曰非魚而走水惟哉惟哉與胡人不知舟何以異哉此  
川最峻甚於嵯峨然漕舩通行州民大悅十三年又命了以試  
自信州諏訪到遠州掛塚可通舟天龍河否了以雖即漕盪然無  
所用故至今舟少方是之時營大佛殿于洛東大木巨材甚勞挽  
牽了以請循河而運之乃聽之於是自伏見里浮之河派而擊焉

了以見伏見地卑於大佛殿基可六丈即壞其高為是於卑處若  
河曲處置轆轤引起復浮水水平如地先是呼許呼邪者五丁憂  
之萬牛難之於是水運不勞力不日材木悉達人皆奇之十六年  
了以請行舟鳴河乃聽之因自伏見河漕舩遡上流達二條至今  
有數百艘遂構家河傍使玄之屈之玄之男玄德嗣焉十九年富  
士河壅峻舟不能行  
鈞命了以有病玄之代行治水又能通舟三月始役七月成之  
聞了以病急告假玄之未入浴先二日了以歿實慶長十九年秋  
七月十二日也時六十一歲此年夏營大悲閣于嵐山山高二十  
丈計壁立谷深右有瀑布前有龜山而直視洛中河水流於龜嵐  
之際舟舩之來去居然可見矣其疾病時謂曰須作我肖像置閣  
側捲巨綱為坐墊為杖而石誌玄之等從其遺教玄之錄其事  
以寄余請之記件件如右昔白圭之治水以隣國為壑張湯褒  
綽嶮巖不能通今了以疏大井河濬鴨水決富七川凡其所排通  
醜閑則舟能行不負其載人皆利之與白圭張湯所為大異矣所  
謂舟楫之利以濟不通者不在茲乎宜哉垂裕後昆余與玄之執  
交久矣故應其請書焉且旌之以銘其詞曰

排巨川兮舟楫通浮鴨水兮梁如虹矧復鑿富士河  
兮各成功慕其錫玄圭兮笑彼化黃熊嵐山之上兮  
名不朽而無窮  
寬永六年冬十一月日



雲  
松  
人  
休  
月  
乃  
乃  
乃



野依 野依の神子盤居しつゝ  
今詳き及本曾義仲上洛して暫く  
松尾神社乃山上にありは所小巖あり  
松尾神社降臨の所なり  
松尾神詠云  
山城乃別雷山尔宮居士亭天降古登神代與利佐幾

最福寺 松尾の南松室村あり  
安元二年の延願上人の所なり  
廢れ及しと再興して移し建た所なり  
延願上人の係當寺なり  
安元及坐像三尺餘ありて上人在世の時佛工命しと云ふの事

峯堂谷堂 舊跡ハ葉室下山田乃西の上あり  
十二の樓閣五重乃塔之四面乃輪藏あり  
四月九日千種頭中將の軍火を置て  
南面の上方二町をくりの所瓦石銅鏡の具土中より  
堂乃本尊茶師佛ハ今下田の内小堂に安んず  
谷堂乃本尊十一面千手觀音ハ今下津村に安んず

真如寺 寺の十二世之万治年中再興  
建立して天台宗之曰地ハ今の方  
此の寺ハ土人具地也古真如寺といふ  
初建立乃由縁ハ二代実深  
此の寺ハ聖觀音の尊像ありて番寺あり



神代三陵 延喜式曰日向埃山陵天津彦火瓊杵尊 日向高屋山上

陵彦火火出見尊日向吾平山上陵彦波瀲武鸕鷀野田邑陵南原祭之其兆域東

己上神代三陵於山城國葛野郡田邑陵南原祭之其兆域東

西一町南北一町云云 此二町の陵今詳す 後文德帝の陵は南二町

又件乃梅津長福寺二十餘間傍の面よりあり是陵乃砂る所

大梅山長福寺 東梅津 禪宗にして佛殿乃本尊の釋迦佛脇士の

普賢文殊表門の額に長福寺と書きて世尊寺忠季卿の筆佛殿

の額に祈禱とありと筆者詳す 次開基の月林大幢國師大元國師

入て法茂茂古林小詞かの國師乃佛惠智鑑大師と號と是則大元

乃文宗帝の勅號と又普光大幢國師と號と是則大元國師乃

後村上院の勅號と又花園院と清歸依あり即は帝乃清塔所と

別傳院と大寶輪と號と宸影の畫圖當寺あり上の清瀆の清宸輪と

予之陋質法印豪信 干時曆應改元無射之候也 清瀆の如し宸影の故爲信卿息圖とる所と

岡山塔を圓明と号し同所清涼院あり

柞當寺の初天台宗にして真理と云ふ女僧れ建之をれより奉久

しく考ては里小梅津左衛門清景と云ふ者ありて月林和尚と尊信

と具時清景と云ふ寺領と忽和尚附與して禪刹と云ふと

梅津左衛門塔 長福寺の門外あり

山之内 乃西千本より四五町ありは所ありて大内裏に時長安

号し村の名と次則草堂の傳教大師の畫あり又里乃西端に

山王祠あり今之内廟中とて群衆と無驗あり又里乃西端に

徳成寺 山之内街道乃西より南側あり洛陽西六條興正寺乃急所

舊跡あり

西院 乃西千本より西六町ありは所ありて本名淳和院 拾遺抄曰橘右后

嵯峨天皇乃長女仁明天皇と同腹ありて後代實録曰橘右后 淳和院

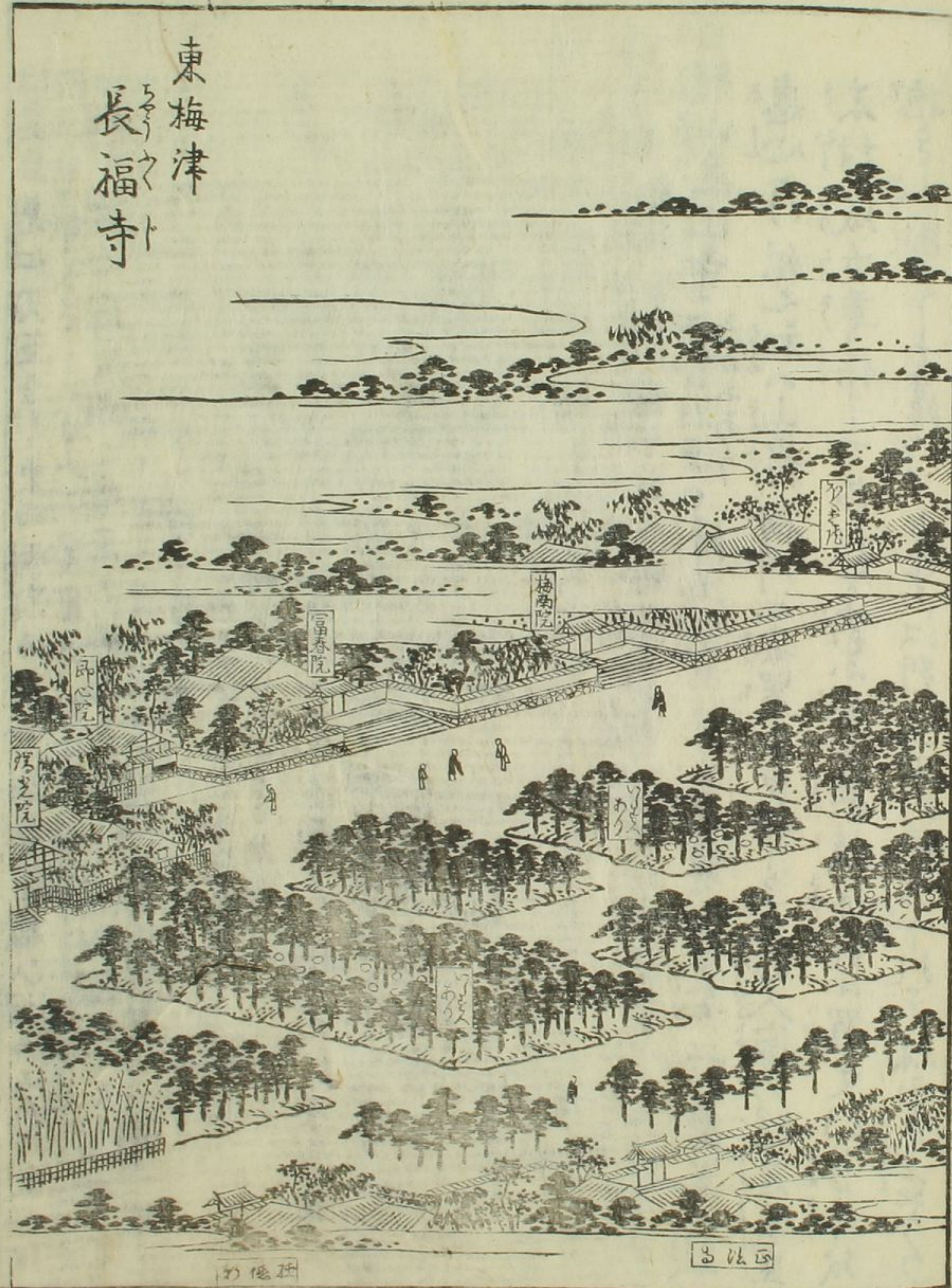
あり承和七年五月淳和帝崩しありて後代實録曰橘右后 淳和院

居し同九年嵯峨右上天皇崩しありて後代實録曰橘右后 淳和院

梨として菩薩戒なり法名長祚と稱し之慶三年三月廿三日薨



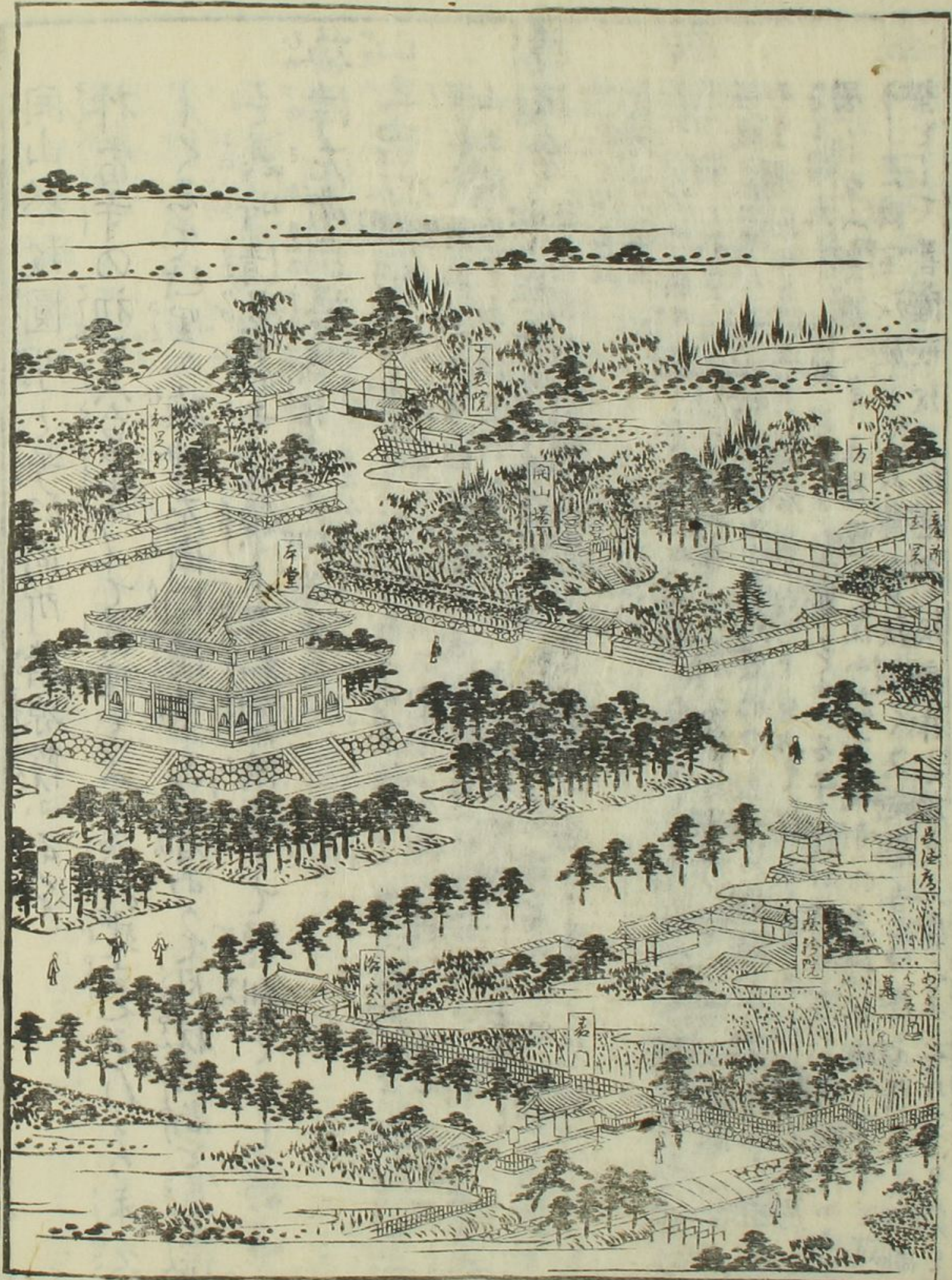
東梅津  
長福寺



竹徳軒

子法正

伊澤



四十五



は皇后慈仁に至り東西兩京の棄兒孤孩を拾ひ養ひし乳母  
給ひ養育するに由り又差巖乃故宮と精舎と大覚寺とつく  
は側小齋治院を建て僧尼の病者療治淨和院とて道場を  
するに卷三十五又曰天長十年二月廿八日乙酉 天皇淳和院を遷すは  
まして淨位天皇太子の講堂なり同卷

西院乃后清くおろさせしめておこさるるを  
くるとは彼院の中は松とけりてりてりてり

後集 素性法師

は所其後源氏乃公卿の学室と故源氏の長者とる人當院に別當  
補中給ふは後小松院清平永徳三年の春鹿園院義満公を大徳と  
淳和齋學兩院乃別當板敷兼一と人なりは号のつて永  
源氏乃公卿大中納言及び大徳と任板敷兼一と人なり

春日社 西院村乃山の麓にありは神祇官の故小神祇  
官春日社と稱し土人産少神と稱すは九月九日の神輿二基

住吉社 同村西の南半町にありは神祇官の故小神祇  
當社を即鎮守なり地の字を寺の地とて六月廿八日津板あり

日照山高山寺 西院村東の津土宗より本尊は子安地藏菩薩  
入口あり

惠心乃化之初山嶽横川に安置しありは惠心入寂の後志賀里  
本村成近尊信してありと家安を具後逆乱に罹てはる縁故

抱き小國より落行し系江別堅田に傍田中平林に棄てたり

まよりは所夜毎光明赫奕して白日如く村人おれと奇なりして  
乃りりるふ地藏尊と傳へり即小堂と嘗て田中の地藏尊と稱し具  
文永年中堅田住人名村小左重後夫婦子のるに奉板焚ては尊像不  
祈誓すれ心を忽性身小成月満て男子と考す是より子安の縁と  
号は又曆應の足利尊氏將軍清歸依ありて洛の西今れ地は遷佛  
仰附られ洛陽六縣地藏巡り乃具一尊とあり

第四川崎清院第五祇陀林寺 又具後東山殿 義政と清信仰ありて  
第六鳥邊野寶積寺は六ヶ所と

小乃方清平産れ験ありそれより累年いかに安泰とて無應はる隆之  
冠石 當寺本堂乃法守乃傍あり 標松 本堂の後庭上あり枝葉壯  
高サ六尺餘冠の形とあり 標松 標松ありては標松と好むもの

秀傳庵 同村春日社乃巽あり禪宗ありて妙心寺大光院乃隱居所あり  
宗圓寺 同村街道の南一町ありは本尊聖觀音ありて禪宗黃檗派に  
筆より當寺乃什寶小散金一口あり後水尾院乃清寺附に兩の環  
黄金ありて散るる環とて樹より表代の名をたり

又樹ありて規範とあり









案内ふくして  
 霧後の近乃板  
 行の好むる  
 雪解の旦冬立  
 乃後細谷川の  
 ありまじわづら  
 て歩ふ足さなる  
 球交傍大井川  
 へ石荒くして  
 歩く見ゆる所も  
 足版入きを踏む  
 傾きと弱々  
 来多しこれぞ  
 憂あるは  
 近憂あるん  
 の誠なり







老の坂



丹波老の坂

地蔵堂

玉分石

三つ石

三十四  
伊澤



伊勢宅

住多るより法をふくむて梅乃枝小むとび

新遺 梅乃枝乃花乃...

寺子院

御霊社

上桂下桂小同神兩社あり土人生土神...

保古羅明神社

土人生土神...

子敦盛奮跡

下久世乃有寺戸此小あり曰乃今...

乃下松小捨りけり曰乃小住居り者い...

蓮生寺

一説小熊谷蓮生住しといふ...

観音堂

同所小あり西津堂といふ...

大原野

王城より凡三里ありて丹波街道...

三五二 伊澤

後撰

續古

善恵上人塔

西山三鈿寺の山下三町より小あり...

て賀州の刺史親季乃子なり始承元年...

一條房橋乃上ありて其母愛情して...

淨觀廣大智恵觀悲觀及慈觀常願...

入りて父母禮を篤くして吉水小贈...

童子乃發心其言のあはれなるを...

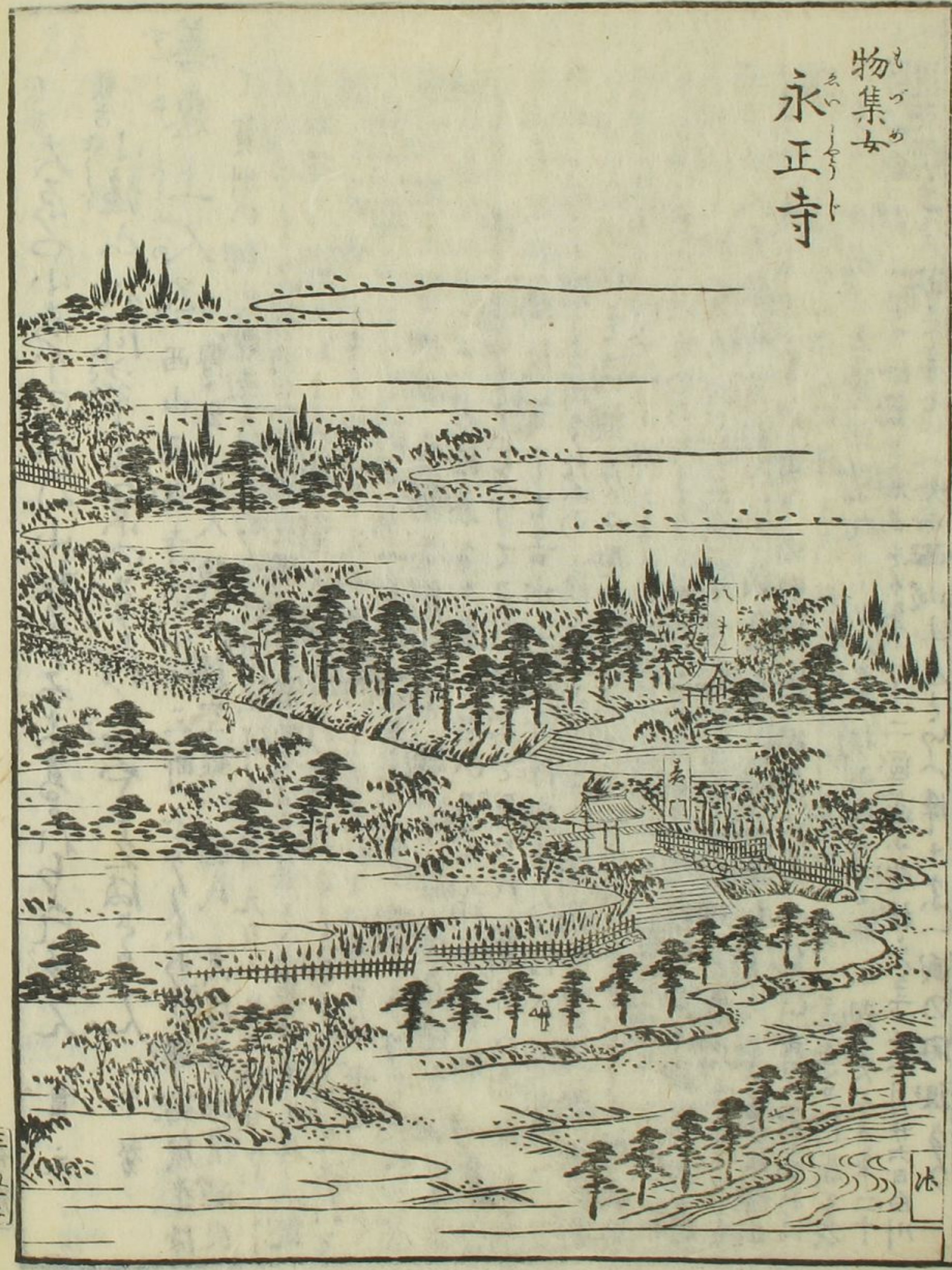
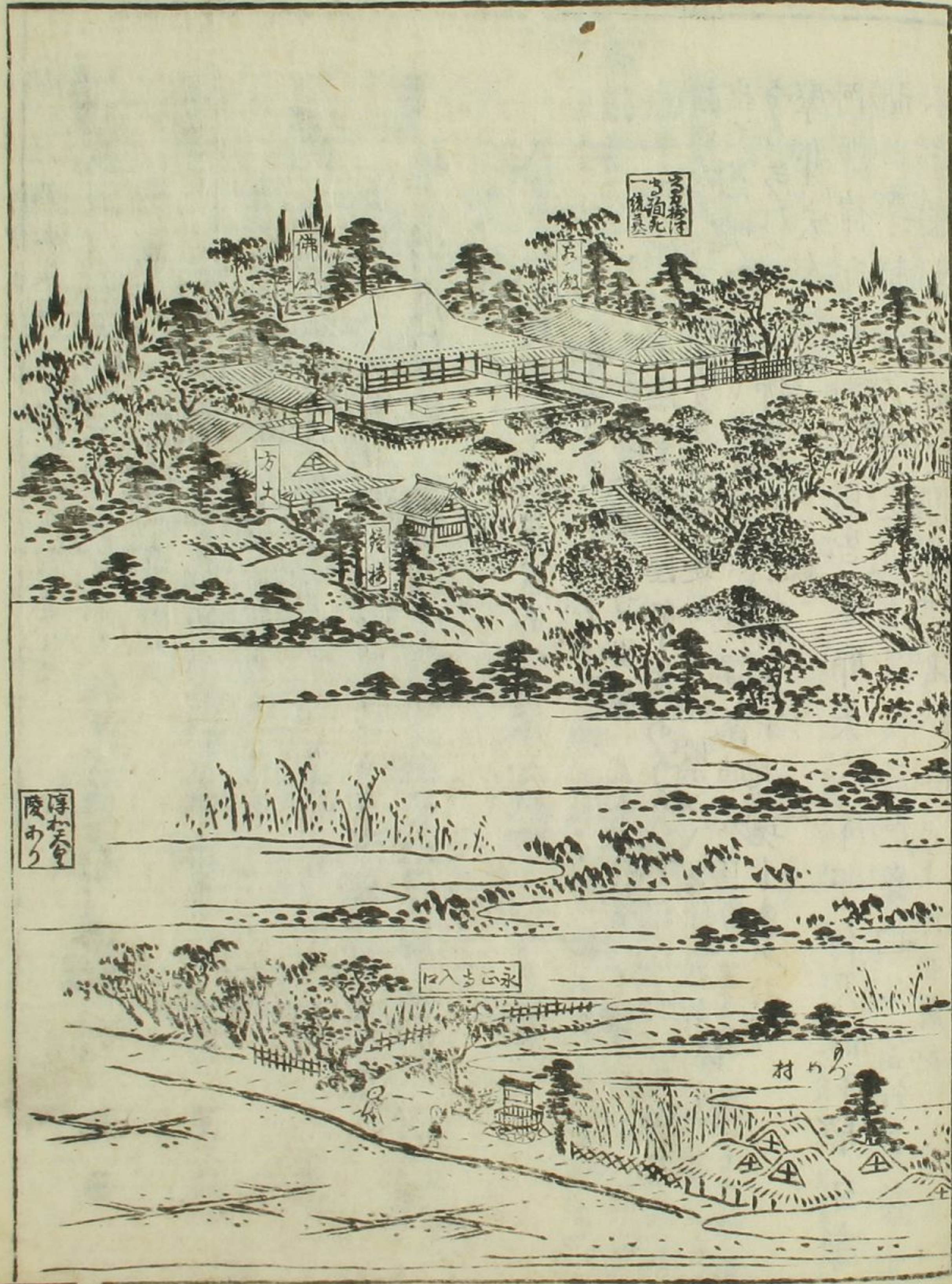
と改名し剃髮乃時金色の觀音盆水...

源空上人月輪禪定殿下乃清か...

難人小法を上人曰律土乃興旨...

遺迎院入寂と年七十一世小西山上人...







西ふみ位々るはむし坂きて  
續後撰 草ふたやとのあしと法たふた世と後りひの夢式 慈鎮

西ふみ位々るはむし坂きて  
續載 西ふみ位々るはむし坂きて  
世法のくれて後西ふみはうりこりるさて人ふりりりる  
慈道法親王

千載位々るはむし坂きて  
西ふみ位々るはむし坂きて  
西ふみ位々るはむし坂きて  
平實方

西ふみ位々るはむし坂きて  
西ふみ位々るはむし坂きて  
西ふみ位々るはむし坂きて  
修明口院  
大武

西ふみ位々るはむし坂きて  
西ふみ位々るはむし坂きて  
西ふみ位々るはむし坂きて  
西ふみ位々るはむし坂きて

長法寺 粟生光明寺より三町どりの南ふあり又村の名もさつと天竺  
當寺乃付室小唐筆乃觀世音坐像一尺余洞基千觀法師なり  
横四尺又六寸圖とる所ハ釋迦如來涅槃小入る以後再ハ金櫃計  
出て老眼照佛母夫人の爲不出現しりなり

摩耶夫人經曰 佛母夫人の爲不出現しりなり  
阿難曰 汝當知爲後世  
不孝衆生故從金棺出問訊於母 已上佛祖統紀

阿難曰 汝當知爲後世  
不孝衆生故從金棺出問訊於母 已上佛祖統紀

不孝衆生故從金棺出問訊於母 已上佛祖統紀

立願山揚谷寺 楳谷ふあり前編ふ出とと  
天の脇上人將軍地蔵毘沙門天の立像之當寺ハ白河院宇  
水觀上人は地又剛樓しりしは本尊ハ威得しり

楊柳水 本堂乃うしりあり眼疾ふは水と  
獨鈷水 日所ハ夫婦石 靈驗あり

淨土谷 柳谷乃真十町餘ふあり民家ありて柳乃名ハ浄谷と  
淨土山兼願寺 同所民家乃中ふあり今總堂とるハ本尊ハ阿彌陀佛

鎮守社 堂乃むしりあり伊勢賀茂ハ幡稻荷  
當寺ハ僧都の岡基ありて觀音壇柵柵房等の名あり

田畠の字の如來像 石鑄大日如來像 岩洞不安

安養谷 日所東丹屋谷 義詳さる

行道石 日所ハ念しと何なり

院墓 日所ハ念しと何なり

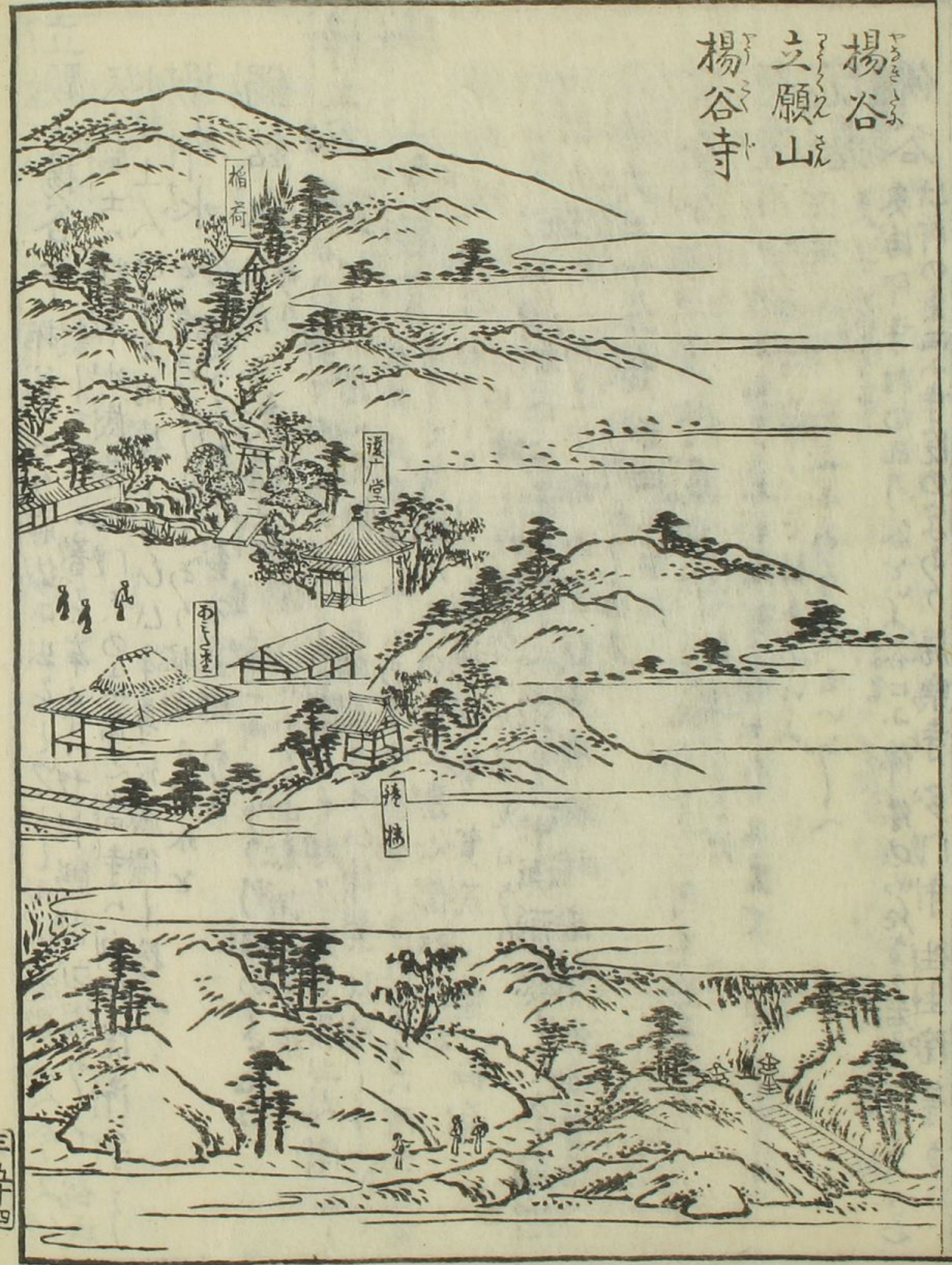
佛谷 奥海印寺村の西乃谷といふ谷ハ佛像のせたる岩ニ故ふつと  
は所の東西寺院の字あり勝樂寺多門寺住生院等あり





伊澤

揚谷  
立願山  
揚谷寺



三五十四

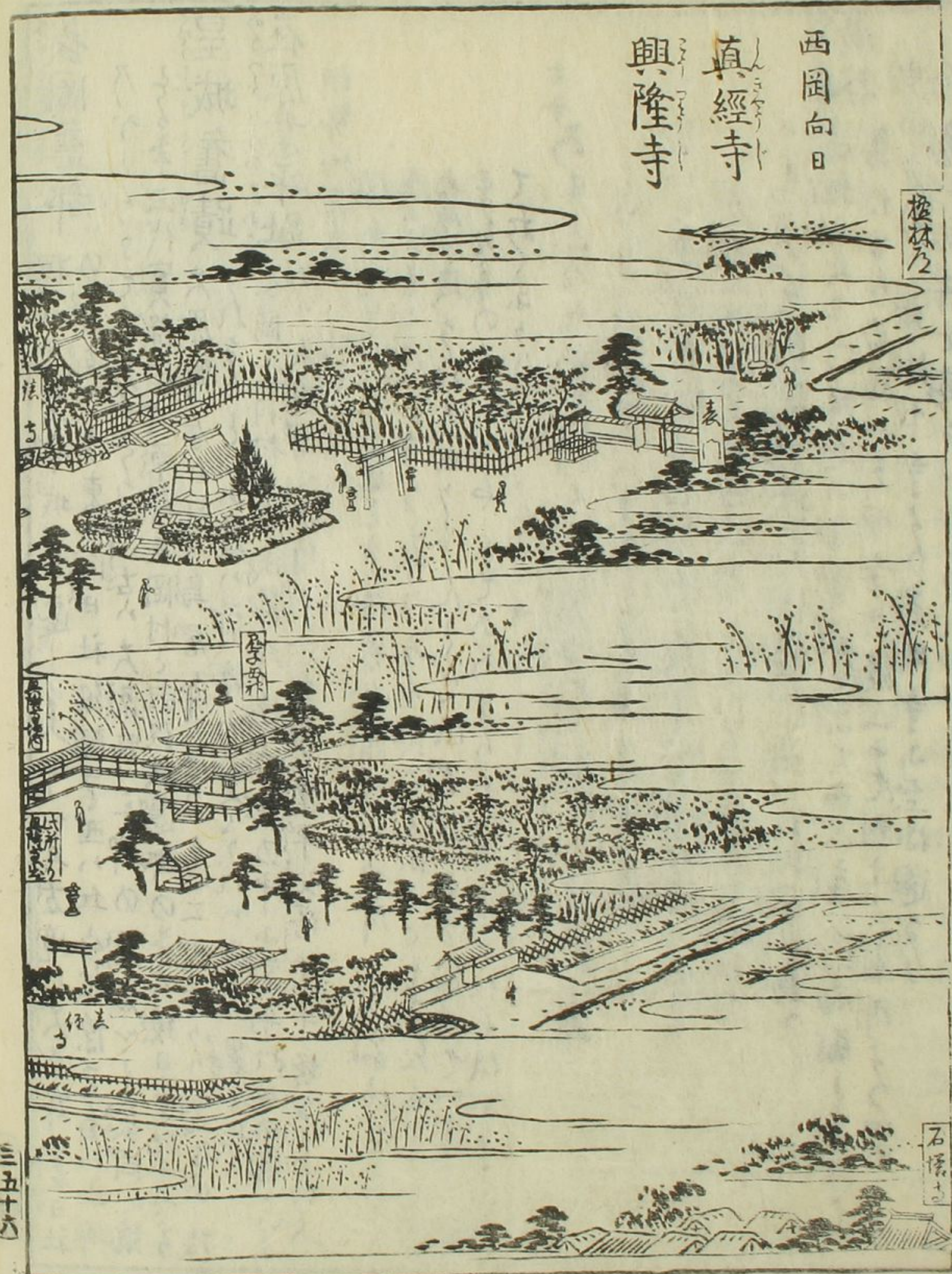








伊澤  
三五八

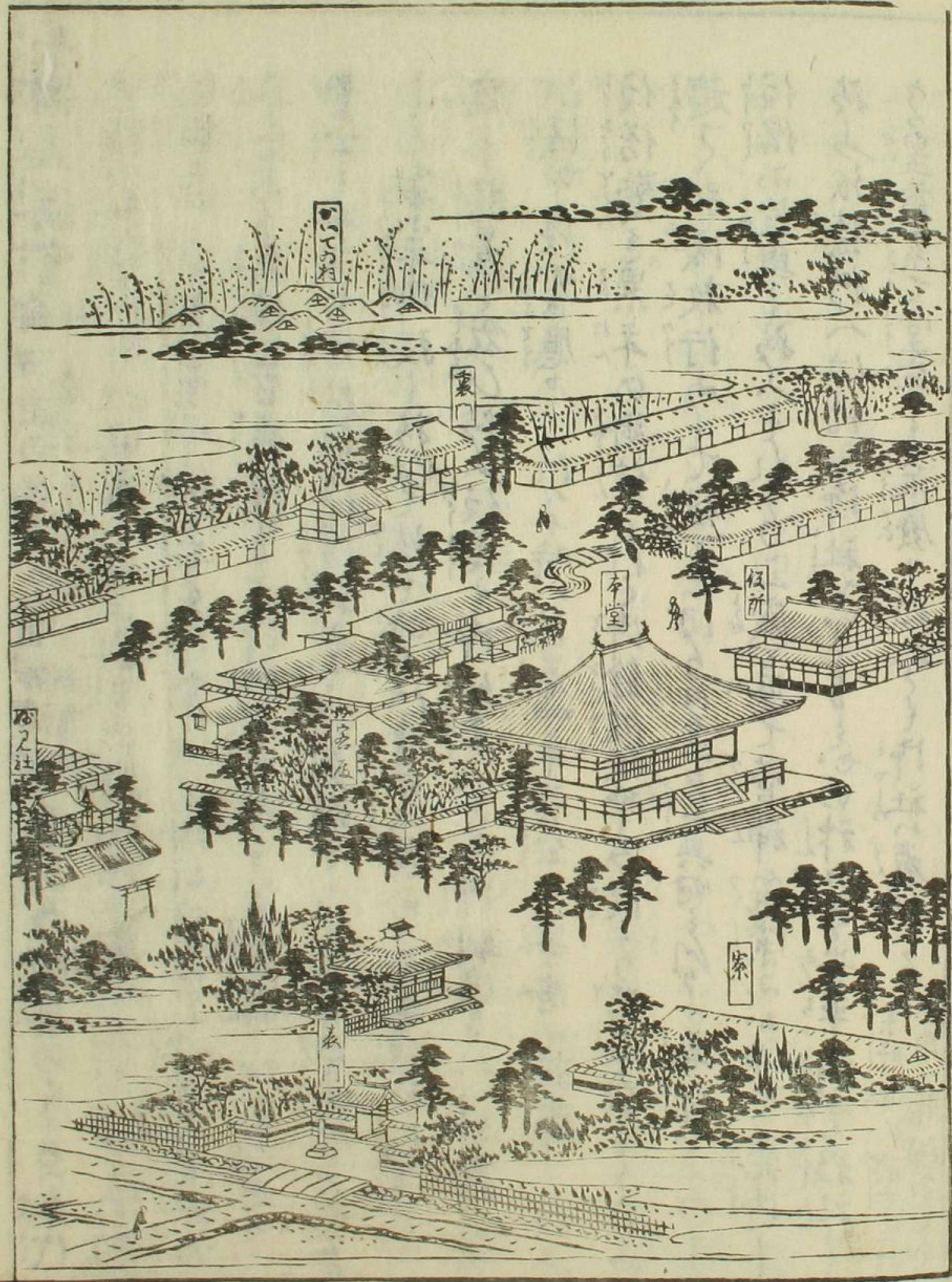


西園向日  
真經寺  
興隆寺

極林乃

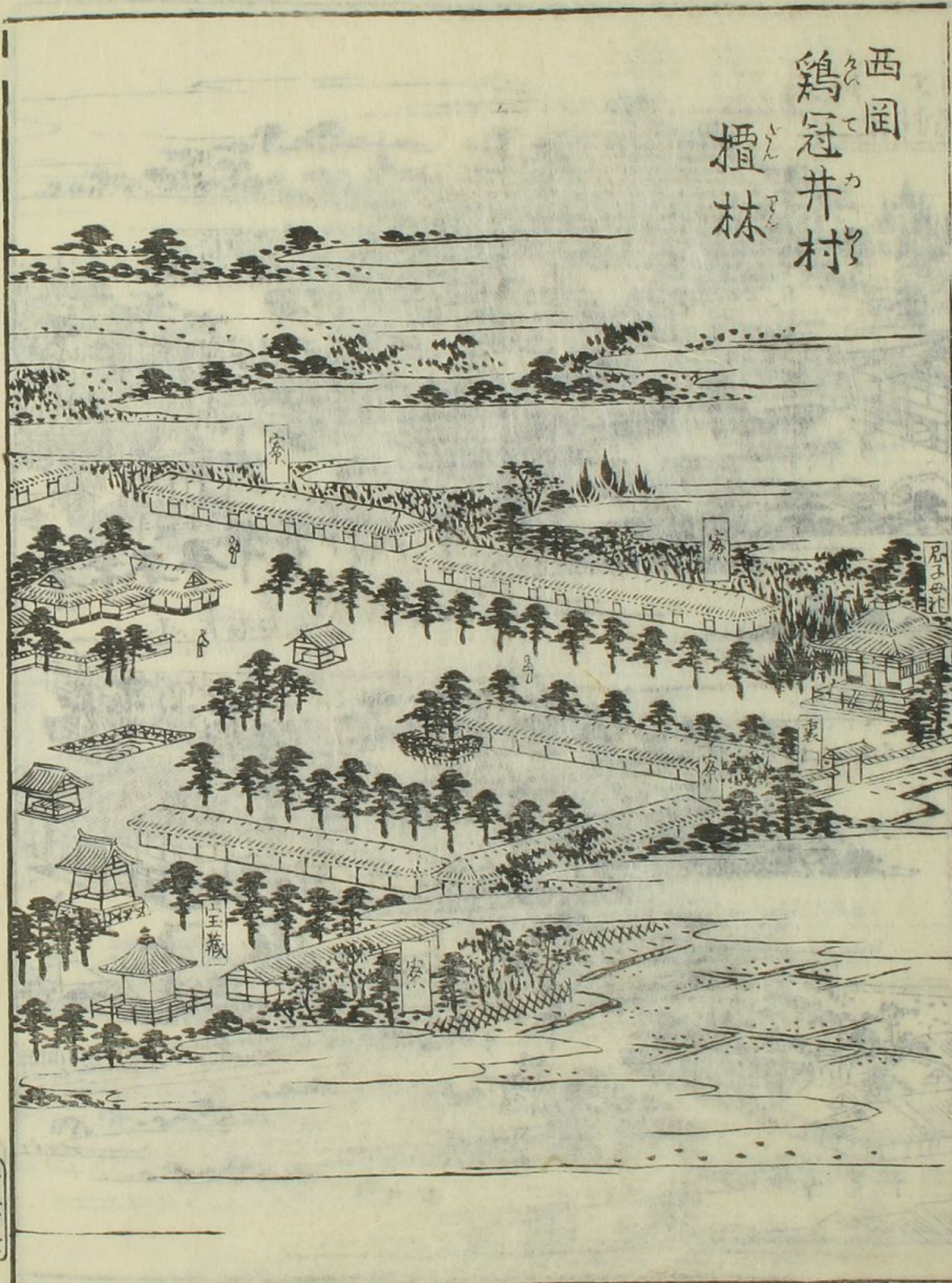
石橋





伊澤  
三五七

西園  
鶏冠井村  
檀林





長岡天満宮 阿田村の西小あり由縁 當社清鎮坐のくめ久代  
 け地小弘法大師に開基し後入真言の精舎有り厥后世々大師に  
 住職して本尊の薬師佛と安堂今乃上羽村の多ふ在平業平卿の  
 亭宅あり其頃の菅丞相いし清幼年ははしく業平卿清在館の時に  
 菅公もゆりく伴ひてけ澤利ふも清之連ましくわち管弦をま  
 しく業平卿段し後して時々け寺小入興ありて雪月の風光を  
 感し勝景を歎ひ後入僧も清知年より清則深き人の懇志を運  
 び儀の次饗應中さける時昌泰四年菅公を宰府小謫遷し後入  
 任信驚も累年の郷信を清餘は後神み定する務居のくりふ  
 趨く別後救行ありて社と志ぼりける菅公其時より尊容より  
 任信小授與し後入それより二歳と歴て菅神筑紫小かわて荒清し  
 後入後聴傳人け地小清社といふもかの神像と安堂一胡考殺れし  
 ころ星霜累て堂宇も荒廢し後れも清社の教傳り

三十八  
 伊澤

神樂殿乃傍 神扉の秘封ありて遷宮の耐り清鎮主京極殿より神宮者  
 田家清頼ありて執行し後入今も神威いらるるくして諸人つる  
 鏡間多く書画乃奉納舞曲をまじりての奉樂ありて社頭乃賑ひ殊  
 さう近きやう境地の風景補色ありてまののくも形る日げ小松乃緑  
 まく梅もあつは小白ひほく様の垣根小神燈乃けけ輝と桜花  
 の朧々々々々たるは又さうさうの卯花小押さうと此の面れつご  
 尊ありち草田亦楓も早乙女のま白く蟬の聲の梢涼くふつまる  
 夕暮林の空も人暗きて月の陰清く虫の音もくくもまげく此頭乃  
 楓樹の時と傳て紅葉し蜀錦の風小飄るくたかのま君花や  
 小出きて青海波と舞後やたもあひ合されあゝ初雪れあゝふ  
 け清神小詣してわちとまらうくむくくく云々傳人傳る都てけ地小困  
 捧りて風色の真妙此小勝まるもまらるん菅神風流後好も後入  
 神意も小現とむく一後今小かへとあはべ



仁和山三尊寺 阿彌陀佛立像二尺七寸

鎮守祠 佛殿乃傍小あり勸請して所雨寶童子と安んじ後内弘法

三尊寺と号する本堂乃二尊小は一尊依合しは由縁あり

又山號の名義詳なり

入定塔 入定の所なりと傳記あり

神足社 阿彌陀佛立像一尺二寸 神足社延喜式に載り又

勝龍寺 本尊十一面觀音乃立像長七寸之用基詳なり

正氣山成就院 阿彌陀佛立像一尺二寸 宿院村小あり

白山社 阿彌陀佛立像一尺二寸 阿彌陀佛立像一尺二寸

成恩寺 山崎小あり神宮寺 上は日所あり律宗あり

袖摺松 山崎小あり神宮寺 上は日所あり律宗あり

神降山 阿彌陀佛立像一尺二寸 阿彌陀佛立像一尺二寸

都名所圖會拾遺卷之三終



早稲田大学図書館

011688994740